週刊 YEAR BOOK

日録20世紀

1952
昭和27年

11|18
平成9年11月18日発行
(毎週1回発行)第1巻第37号
¥560
講談社

日航「もく星号」遭難の真相

超人気「君の名は」が女湯をガラガラにした

手塚治虫の「鉄腕アトム」デビュー!

「風と共に去りぬ」など"洋画"ブーム

乗客乗員37名全員死亡！ 米軍管制下の“闇”に消えた 日航「もく星号」遭難事件の真相

毎日新聞社

◀三原山噴火口東側一キロの地点で発見。

▶「もく星号」墜落現場。米軍はなぜかきわめて迅速に事故処理を終えてしまったという。写真左上方には、米兵の姿が。

昭和二七年四月九日、日本航空の定期旅客機「もく星号」が伊豆大島の三原山山腹に激突し、遭難した。戦後の民間航空機初の事故だった。一時は全員救助の報が流れるなど、情報は混乱をきわめた。結果的に乗客乗員は全員死亡。しかし占領下という特殊な事情により、ついにその真相は究明されることがなかった。

「もく星号」消息を絶つ 全員救助の米軍情報も

「七時五七分に館山上空を通過。高度六〇〇〇フィート。八時七分に大島上空到達予定」——昭和二七年四月九日午前七時すぎ、雨の羽田空港を離陸した日本航空の大阪経由福岡行のマーチン二〇二型旅客機「もく星号」は、この通信を最後に消息を絶った。

ただちに日航や海上保安庁、米空・海軍などによって捜索が開始された。そうした中、午後三時五〇分に国家警察静岡県本部は「米軍情報によると、浜名湖西南一六キロの海上で米空軍の捜索機が遭難機を発見、米軍救助隊が出動し、乗員と

▲「もく星号」は前年の10月25日、日本航空の戦後再開1番機として、東京—大阪—福岡の定期航路に就航した。 朝日新聞社

乗客を全員救助した」と発表。東京・西銀座の日航本社に詰めかけた乗客の家族らは胸をなで下ろした。新聞やラジオも全員救助を報道し、九州の地方紙が、同機に搭乗の漫談家・大辻司郎（五五）の「僕の漫談の材料がまたふえた」という架空の談話を掲載する勇み足もあった。

だがその七時間後、米極東海軍司令部が、米軍は遭難者を救助しておらず、「もく星号」は依然所在不明と述べ、状況は振り出しに戻ったのである。

◀昭和二五年、八幡製鉄社長に就任した三鬼隆。 共同通信社

◀大辻司郎（左端）は、長崎の「平和博」に向かうところだった。右は長男・寿雄（後の大辻伺郎）。

乗客乗員37名全員死亡！ 米軍管制下の"闇"に消えた 日航「もく星号」遭難事件の真相

◀遺体は11日、東海汽船の臨時便「菊丸」で、大島・元村から東京・月島に運ばれた。 朝日新聞社

翌一〇日、捜索の手は館山から伊勢湾にいたる飛行予定ルート全般に広げられた。そして午前八時三四分、「もく星号」は大島・三原山火口付近の山腹に激突した無惨な姿で発見された。現場には大破した機体の破片があたり一帯に飛び散り、顔を山肌の砂に突っこんでいたり、全身を焼かれた遺体が約三キロ四方にわたって散乱していた。乗員乗客三七名に生存者は皆無だった。その中には、〝生還談〟を語った大辻司郎や、当時の八幡製鉄社長・三鬼隆（六〇）らも含まれていた。

米軍が交信記録提出拒否 難航した事故の原因調査

運輸省は事故調査委員会を特設し、原因調査を開始した。羽田—大阪間の定期ルートは大島上空を通過するが、その高度は六〇〇〇フィートないし八〇〇〇フィートと定められていた。その高度で飛行していれば海抜二三〇〇フィート（七六四メートル）の三原山に激突するはずはない。焦点は、なぜ三原山に激突するような低空をフライトしていたかにあった。

現場調査の結果、機体に異常は認められなかった。つまり原因は人為的ミスにしぼられたのである。占領下の日本では日本人による航空機の所有・運航が許されなかっただけでなく、航空管制も米軍が握っていた。前年一〇月に営業開始した日本航空も、運航や整備はノースウエスト航空があたり、日航は営業を担当していたにすぎなかった。「もく星号」のスチュワード機長も米国人だった。だが同機長は米国での飛行経験こそ豊富だが、来日してわずか三ヵ月あまり、飛行回数も一〇回そこそこだった。そこで調査委員会は経験不足による機長の操縦ミスと、さらに管制官の指示の適否に焦点をあて、米軍に機長と管制官との交信を記録したテープの提出を要請した。同機は飛行記録装置を搭載しておらず、交信テープが最も重要な証拠だった。しかし再三の要請にもかかわらず、米軍は提出を拒否。

その結果、調査委はこれ以上の進展は望めないと判断、事故から一ヵ月後に調査結果を発表した。航空機事故調査としては異例の早さであった。原因は「航空管制の不手際その他何らかの間接原因に基づく操縦者の錯誤」と推定された。

その後、事故原因をめぐって、高度計異常説、爆破説、米軍謀略説（松本清張）などさまざまな憶測が飛びかった。事故当日、スチュワード機長を羽田空港まで送ったハイヤー運転手・但木茂氏（現・八三歳）は次のように語る。但木氏は旧日本陸軍の飛行連隊に所属した人物で、「当時かつての同僚が日航に在職していたため、彼らに迷惑がかかってはと、遠慮した証言をしてきたが、今は真相を語れます」と前置きしてこう言う。

「機長を乗せた直後から、車内は酒の臭いでいっぱい。羽田で降ろす時も、伝票へのサインを忘れ、催促したが、手がブルブル震えて署名もおぼつかない状態。目はどろんとしており、顔は真っ赤。明らかに酩酊状態でした」

航空評論家の関川栄一郎氏は、この機長泥酔説が有力と考えている。

「機長飲酒説は『毎日新聞』も取り上げたが、ノースウエストのキング副社長が否定したため深く検討されなかった。だが管制官は、『もく星号』に『成田離陸後、館山まで高度二〇〇〇フィート、館山通過後も一〇分間は同高度を維持せよ』と指示し、後に『館山通過後は六〇〇〇フィート』と訂正したとされる。しかも事故当日は荒天で、機長はさまざまな点で気を取られたはず。もし酩酊状態の機長が訂正指示を忘れて最初の指示どおりに飛べば、当然三原山にぶつかる。機長の遺体は解剖されなかったため、物的証拠はない。ただ占領下という状況を考えれば、米軍とアメリカのメンツを保つために事実を隠蔽した可能性は高いと思う」

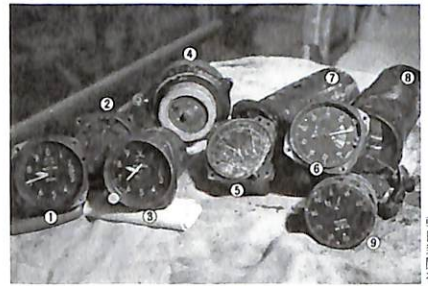
同年一〇月、日航はノースウエストへの委託を解消し、自主運航を開始した。日本に本格的な「空の時代」が始まったのである。だが、「もく星号」事件の真相は、いまだ明らかにされないままである。

謎を秘めた「もく星号」の計器

米軍の録音テープ提出拒否で「もく星号」の墜落原因調査は暗礁に乗り上げた。しかし、現場からは比較的損傷の少ない計器類が回収され、事故原因解明の糸口になるかと期待された。

回収されたラジオ・コンパスは、館山上空と大島を結ぶ230度をピッタリとさし、速度計も291マイルとマーチン202型の巡航速度を示していた。この二つの計器からは、操縦士が実に正確に飛行していたことが推測される。

一方で、同時に回収された二つの高度計は、現在まで解けない謎を残した。高度計のひとつは7715フィートをさし、もうひとつは7615フィートをさしていた。実際は2000フィートで飛行していたのに、なぜ高度計は、いずれも7000フィート以上をさしていたのか。墜落の衝撃で空まわりしたとしても、両者が近い数字をさし示すとは考えにくい。そこから高度計が二つとも狂っていたという説が出てくるが、その真偽のほどは結局、明らかにならなかった。

事故現場から回収された計器類は原因究明の糸口となるどころか、さらに謎を深めただけだったのである。

▲①高度計②コンパス③高度計④修正舵修正装置⑤時計⑥速度計⑦不明⑧傾斜計⑨速度計 朝日新聞社

「君の名は」が女湯をガラガラにした！

あやかり土産品一〇〇種類、「真知子巻き」も大流行

戦後の復興が軌道に乗り始めた昭和二七年、NHKの連続ラジオドラマ「君の名は」がスタートした。東京大空襲の夜、命をかばい合った見知らぬ男女が、半年後に数寄屋橋での再会を約束して別れる場面から始まるこの悲恋物語は、なぜ大ヒットしたのか。

日本中の女性たちがラジオの前にクギ付け

菊田一夫原作「君の名は」がスタートしたのは、昭和二七年四月一〇日。毎週木曜日の午後八時三〇分から九時まで、二年にわたって日本中の女性たちはこのドラマに魅せられ、冒頭に流れる「忘却とは忘れ去ることなり、忘れ得ずして…」のナレーションは一世を風靡した。

当初、戦後を背景にした野心的な社会劇としてスタートしたこのドラマは、放送が始まって半年ほどは大した人気もなかったが、氏家真知子と後宮春樹が中心のメロドラマへと変わっていくと、がぜん人気が出始めたのだった。

ストーリーは「すれ違い」の連続。思いを寄せ合いながらもめぐり会えず、北海道から九州まで各地を転々とする二人の運命に、「なんでこうもチグハグなのか」といらだちをおぼえた瞬間、聴取者はこのドラマの虜になっていた。

NHKには聴取者から「春樹と真知子を結婚させないと火をつけるぞ」といった脅迫文や「二人を結婚させないで」という投書も数多く寄せられ、ドラマは病床に伏した真知子のもとにパリから春樹が駆けつけめでたく再会するところで大詰めを迎える。

ラジオ契約数は一〇〇〇万を突破し、すでに「一家に一台」の時代であった。

「私が昭和二七年の六月に結婚すると、菊田一夫先生は真知子まで結婚させて、筋立てを悲恋の『すれ違いドラマ』に仕立てていったのです。おかげで私は新婚早々の晴れがましい時だったのに、スタッフの人たちからは〝憂愁夫人〟などとからかわれていました」

こう語るのは、真知子役を演じた阿里道子さんである。

とにかくこの番組にはいくつかの逸話が生まれた。〝女湯がガラガラになる〟〝女工さんたちが踏むミシンが止まって

NHK提供

▶ラジオドラマ「君の名は」の出演者が、作者の菊田一夫を囲んで本読み。後列左から河村弘二、北沢彪（春樹）、臼井正明、伊藤淳子、荒木玉枝、前列右から阿里道子（真知子）、加藤幸子、菊田一夫。

◀翌二八年、「君の名は」は松竹で映画化された。数寄屋橋で再会を約束する春樹（佐田啓二）と真知子（岸恵子）。

松竹提供（二点とも）

▼映画ポスター。2年前デビューした新人・岸恵子は、一躍トップ女優に。

しまう〃〃病院の看護婦さんが病室から消える〃など。一説には後の映画化で、松竹の宣伝部がひねり出した宣伝文句だったとも言われているが、日本中の女性たちの心をつかんだのは間違いない。

日本橋の某百貨店では、「お客様に申し上げます。後宮様、後宮様、お連れの方が屋上でお待ちになっております」とアナウンスしたところ、混雑した売り場が一斉に静まり返ったという実話も残っている。

▶ヒロインの真知子が、長いストールを頭と首に巻いて登場、「真知子巻き」流行のもととなった。大阪・松竹座前で。

上田三郎

こうして「君の名は」は放送開始一年目には、完全にヒット番組の仲間入りをはたしていた。一年間で終わるはずだったのが急遽二年に延長され、二八年末の聴取率調査では推定聴取者数は一八六二万人。日本人の五人に一人以上がこの放送に耳を傾けていたことになる。

平均聴取率は五〇パーセントで、「三つの歌」（NHK）の六二パーセントに次ぐ第二位。当時人気の主流は歌謡番組で、これまでベストテン入りがなかったラジオドラマとしては空前の記録を作ったのである。

ブームにあやかる便乗商品も続出

映画（大庭秀雄監督）が封切られたのは昭和二八年の九月一五日、ラジオドラマとの〃二重奏〃であった。当代の若手人気スター、岸恵子と佐田啓二主演のこの映画も空前の大ヒット。プリントを普段の二倍にあたる七六本に焼き増しし、全国での上映総収入が二億六〇〇〇万円という記録を残した。

この大当たりに気をよくして製作された第二部、第三部も大ヒットをかさね、第一部から第三部まで、延べ約四〇〇〇万人の観客を集め、配給収入一〇億円を達成した。

映画を製作した松竹にも異変が起きた。例年越冬資金を要求して、組合がスト騒ぎを起こすほどのシブイ会社で、二九年三月末には臨時ボーナスが支給された。その額は年収の一ヵ月分。不意打ちを食わされた社員は、ただただ驚くばかりの珍事であった。

ブームにあやかろうとする商魂もすさまじかった。主人公二人が初めて出会った東京・数寄屋橋をはじめ、全国各地に「君の名は」名所が生まれ、ロケ地である佐渡、雲仙、島原などの旅館組合や商店街は全面的に協力。観光客集めに「君の名は」ロケ記念碑が次々に立てられ、ロケ現場には「真知子岩」までできた。

土産物にも「君の名は」にちなんだネーミングが登場、「君の名はせんべい」「君の名はゆかた」をはじめ、ヒロインにあやかった「真知子ようかん」「真知子あめ」「春樹ズボン」など、その数一〇〇種類にものぼったという。

また映画の第二作目で岸恵子が長いストールを頭と首に巻いて登場するとこれが大流行、「真知子巻き」と名づけられたストール姿の女性たちが街中にあふれたほどであった。東京にはキャバレー「君の名は」が、関西には「君の名は」パチンコ店も出現する過熱ぶりだった。

ラジオドラマは九八回続き昭和二九年四月八日に最終回を迎えたが、この「すれ違い」のモチーフは、後に数々のメロドラマに引き継がれ、人気を生む秘策として定着したのである。

阿里さんは、「当時は封建的な風潮も残っていた時代で、愛するもの同士がなかなか一緒になれなかったり、戦争で愛する人を亡くした人なども少なくなかった。愛を一筋に貫こうとする真知子と春樹を、我が身におきかえて一生懸命応援した人が多かったのでしょう」と人気を博した原因を語っている。

女たちの肖像

長編小説『二十四の瞳』を泣きながら執筆した壺井栄の〃大らかな母性〃

稲葉真弓

大石久子先生は壺井栄（五一）の長編小説『二十四の瞳』の主人公である。この年キリスト教関係の雑誌「ニュー・エイジ」で連載が始まった『二十四の瞳』は、昭和三年、瀬戸内海の小さな村の分教場に大石先生が赴任してくるところから始まる。

連載中はたいして話題にならなかったが、連載終了後、光文社から単行本として出版されると、村の一二人の子どもたちと喜びや悲しみを分かち合って暮らす先生のヒューマンな姿が共感を呼び、徐々に読者をふやしていった。爆発的な『二十四の瞳』ブームが起きるのは、木下恵介監督によって映画化された二九年のことである。

壺井栄と同居していた甥の戎居研造によると、栄はこの作品を書きながら、しばしば目を真っ赤にして泣いていたという。彼女自身の子ども時代の暮らしや生活や夢がそこに投影されているからだった。

壺井栄は明治三三年八月、瀬戸内海の小豆島に一〇人兄弟の五女として生まれた。父親は醤油の樽作りの職人で商売は繁盛していたが、高等小学校に入った頃、不況による倒産の余波から破産、借家住まいを余儀なくされた。大正四年村の郵便局に就職、ここで六年余にわたって働きながら本をむさぼり読んだが、彼女の文学的下地ができたのは、村役場勤務を経て、大正一四年、同郷の詩人・壺井繁治を訪ねて上京してからである。同年、繁治と結婚した彼女は、作家の林芙美子、平林たい子らと親交を結び、昭和三年の暮れ、「婦女界」が募集した生活記録に当選、昭和一三年秋には「大根の葉」を発表、これが作家としての出世作となった。

◀壺井栄は、宮本百合子、佐多稲子らの勧めで、出世作「大根の葉」を執筆した。

栄は「大らかな母性」を持った人として知られているが、夫が思想犯として検挙された折にも、全日本無産者芸術連盟の機関誌「戦旗」の仕事を手伝ったり、筆耕の仕事をして生活を支え、父母の死後は二人の妹を引き取り、姪や甥と同居、遠い親戚の孤児も自分のもとで育て、惜しみない愛を注いだ。

名作『二十四の瞳』には、まわりから〃お母さん〃と慕われた栄自身の温かい人柄が投影されているが、同時に子どもの目を通した反戦への思いも強烈に貫かれている。その無垢な〃瞳〃が敗戦後の人々に感動を与えたのだが、栄は昭和四二年喘息の発作で死去。最後の言葉は「みんな仲よく」だったという。

勝者・敗者

一六年ぶりの五輪で快挙！ 石井庄八の金メダル獲得でレスリング「王国」スタート

阿部珠樹

第二次大戦によってIOC（国際オリンピック委員会）から締め出されていた日本は、前年の昭和二六年、ようやく復帰が認められた。アマチュアスポーツの選手に、オリンピックという晴れ舞台に上がる機会が戻ってきたのである。だから、この年のヘルシンキオリンピックにかける期待は、選手も国民もそれまでにないほど高かった。

敗戦直後の日本人を勇気づけた水泳の古橋は、オリンピックでどれだけ活躍できるのか、戦前のロサンゼルス、ベルリン大会で金メダルをとった陸上跳躍陣は、戦後もその輝きを保ち続けているのか。

しかし、七月一九日、大会が開幕すると、選手も国民も、一六年のブランクが想像以上に大きかったことを思い知らされることになる。「王国」と言われた水泳陣は、金メダルをひとつも獲得することができず銀三個、古橋は四〇〇メートル自由形で八位に入るのがやっとだった。陸上もメダルは一個もなしの惨敗。

うちひしがれていたところに飛びこんできたのが、レスリング・フリースタイル・バンタム級の石井庄八金メダル獲得のニュースだった。

石井はこの年二五歳。前年、日本選手権を制したほか、アメリカ遠征でも活躍し、日本レスリング陣の主将をつとめていた。得意技はすばやい動きからの投げ、返し技。特に優勝候補と言われたトルコの選手を破った三回戦の返し技、決勝でソ連のマメドベコフを追いこんだ寝技から腕固めの連続技は鮮やかだった。

上位入賞の期待はあったが、まさか優勝とは、本人も周囲も考えもしなかった快挙である。表彰台の中央に立ったものの、石井は、何が起こったのかはっきりわからず、「君が代」の吹奏もよく聞きとれない様子だった。一段落した後、記者団に囲まれると、「これからゆっくり試合の経過や表彰式を思い出してみようと思います」と、初めてリラックスした笑顔を見せた。

この勝利を足がかりに、日本レスリング界は、野性的な猛練習で世界に頭角を現し、東京オリンピックで金メダル五個という大輪の花を咲かせることになる。

共同通信社

▲石井は後にコーチ、レスリング協会常務理事として、笹原正三らの名選手を育てあげた。

毎日新聞社

▼白鳥事件起こる（1月21日）札幌市警の白鳥警部が射殺され、10月共産党の村上国治が逮捕されるが（38年有罪確定）、唯一の物証（写真右が死体から摘出、中・左は試射訓練時の弾丸）が疑われた。

▲相撲ののぼり復活（1月12日）春場所初日を迎えた新築の蔵前国技館に、「千代ノ山関」「東富士関」などと記した50本の色鮮やかなのぼりが40年ぶりにはためいた。この場所の優勝は37歳の横綱羽黒山だった。

毎日新聞社

▲パチンコ日本一（1月15日）東京で「弾球選手権大会」開催、600人が出玉を競った。入場税3倍で一気に不景気になった業界の起死回生策。写真は22歳の優勝者。賞金3万円と機械1台を獲得した。

▶硫黄島で遺骨調査始まる（1月30日）日米合わせて約3万人が戦死した「白骨の島」に、元警備隊指令の和智恒蔵師（写真）らが上陸。3月に遺骨30柱、遺品150点を持って帰国した。

朝日新聞社

朝日新聞社

◀日比賠償会談始まる（1月28日）津島寿一全権大使らがマニラを訪問。フィリピンが80億ドルを求めたため難航。4年後、約5億ドル相当の役務と生産財による賠償で合意した。

▲米国からサラブレッド入荷（1月21日）農林省が優秀競走馬として輸入、その第一陣の3歳メス24頭、オス6頭が横浜港に上陸。籤により1頭150万円で馬主に引き取られた。

昭和27年1月

1（火）●一般参賀・歌会始など皇室の正月行事は、天皇が喪のため取りやめ。
2（水）●農林省、競走馬改良のため米からサラブレッド五二頭を買い付け（21日三〇頭が横浜着）。
3（木）●英国、自国製ライターの模造で日本に抗議。
4（金）●OSS（海外供給物資販売所）、日本人に開放。●英国、反英運動に対しスエズ運河を封鎖。
5（土）●死者や失明者を出した「殺人アルコール」の密造で東京・新宿の飲食店経営者を検挙。
6（日）●力士会総会、力道山に復帰の意思なしと確認。
7（月）●「アチャコ青春手帖」放送開始。
8（火）●東京・京橋にブリヂストン美術館開館。
9（水）●電通省、慶弔電報の取り扱い再開を決定。
10（木）●ブラジル、日本から五〇〇〇家族入植を承認。
11（金）●国税庁、脱税対策で第三者通報制を決定。
12（土）●ルバング島で元日本兵四人が警官隊と交戦。●大相撲春場所、新装の蔵前国技館で開幕。
13（日）●神戸検疫所で輸入ビルマ米から初めて大量の黄変米を発見。ボイコット運動起こる。
14（月）●都内のパチンコ屋が五〇〇〇軒突破と新聞に。
15（火）●少女の家出急増、前年は一〇〇〇人と新聞に。
16（水）●東京都、結核患者の医療費半額補助の制限を緩和。月収一万一〇〇〇円以下の家庭に補助。
17（木）●GHQ、防衛費が約二割の政府予算案を了承。
18（金）●東京地裁、チャタレイ裁判で訳者・伊藤整に無罪、出版元の小山書店主に罰金刑の判決。●韓国、日本領土よりに李承晩ラインを設定。
19（土）●カンボジア国王・シアヌークが来日。
20（日）●日本遺族厚生連盟、戦没者遺族援護対策を不満とし首相私邸に陳情、徹夜の座りこみ。
21（月）●札幌市で警備課長・白鳥一雄射殺（白鳥事件）。
22（火）●プロ野球・東急の大下弘、西鉄に移籍。
23（水）●NHK、初の国会中継（首相の施政方針演説）。
24（木）●GHQ、帝国ホテル・両国旧国技館など接収した都市財産返還の順次実施を発表。
25（金）●自由党総務会、独立後に紀元節復活で一致。
26（土）●フィリピンの戦争未亡人連盟、日本から戦争孤児に贈られた玩具の受け取りを拒否。
27（日）●大阪で民放初のラジオ聴取率調査を実施。
28（月）●米上院、新移民法承認。アジア人にも市民権。
29（火）●八木アンテナ設立。テレビアンテナの製造。
30（水）●元硫黄島警備隊司令・和智恒蔵ら、硫黄島に到着。戦没者の遺骨調査開始。
31（木）●全国初の専用施設、川口オートレース場完成。

ニュース・ファイル 1952

フォト＋日録で再現する366日

講和発効・独立回復が達成された。しかし、その一方での日米行政協定調印、破防法制定などの動きに各地で騒乱が相次ぎ、メーデーは皇居前で流血の惨事となった。また、新憲法による初の国儀として、皇太子立太子礼が行われたのもこの年だった。

◀皇太子明仁、立太子礼（11月10日）新装の皇居仮宮殿で満18歳になった成年式と、公式に皇位継承者であることを定める儀式が行われた。マスコミはこぞって「明るい民主的な皇室」と報道、皇室ブームに沸いた。
毎日新聞社

▲初参加の日本が金4個（2月21日）ボンベイの世界卓球選手権大会で、男子単優勝の佐藤博治を含め、7種目中女子団体、男・女複合の4種目を制覇。写真はこの日帰国の選手団。

▲バスガイド・コンクール（2月17日）東京陸運局と都乗合自動車協会が共催、都内や日光などのバス会社の54人が、東京の共立講堂でのどを競った。審査員は金田一京助、徳川夢声ら。

▼「鉄の肺」到着（2月14日）米人篤志家による寄贈で国立東京第一病院に設置。鉄製円筒形の気密室の気圧を変化させることで、患者の呼吸を補助する装置。呼吸に必要な筋肉を冒された小児麻痺患者にとって朗報だった。

▲東大ポポロ事件起こる（2月20日）サークル劇団・ポポロが上演中、刑事の潜入が発覚、詰問した二人が逮捕され、治安維持か大学の自治かを争う訴訟となった。写真は学生たちの真相報告会。

▲テレビ時代幕開け（2月）毎週2日間、3時間ずつ映画やニュースが放送された。しかし出力が小さく受像できる地域は約100キロ、受像機も300台ほどだった。写真は東京・神田の電気街で。

◀日本初の国際カーレース（2月）千葉県茂原町の旧飛行場で観衆10万人を集め、30周110キロを競った。参加者は在日英米人15人と日本人二人。写真は優勝したジャガー（右）とMGの接戦。

昭和27年2月

1（金）●ストレプトマイシンの薬局販売が始まる。
●ボンベイの世界卓球選手権に日本が初参加（~10日。七種目中四種目に優勝）。
2（土）●GHQ、輸出管理権を日本政府に移譲と発表。
3（日）●力道山、プロレス修業のため米国に出発。
4（月）●外国タバコの輸入第一船が横浜に入港。
5（火）●高額収入印紙の変造・販売容疑で七人逮捕。法務局関係者四〇人が関与。
6（水）●英国王死去（8日エリザベス二世即位）。
7（木）●B29、埼玉県金子村に墜落。一七人死亡。
8（金）●文部省が「純潔教育」の再検討へ、と新聞に。
9（土）●政府、宇垣一成ら一三八人の追放解除を発表。
10（日）●NHK、北米・中国などに国際放送を再開。
11（月）●専売公社、タバコ「ピース」の新デザインを発表。R・ローウイに一五〇万円で依頼。
12（火）●昭和二〇年生まれの新入学児童は、その前年より二七万人減の一五四万人、と新聞に。
13（水）●保健体育審、学校体育に剣道復活を答申。
14（木）●オスロ冬季五輪開幕。日本は戦後初参加。
15（金）●第一次日韓正式会談開始（4月末打ち切り）。
●横浜港のメリケン波止場が接収解除になる。
16（土）●衆院、尾崎行雄の議員勤続五〇年表彰を決議。
17（日）●鳥取市賀露港で浮遊機雷爆発。六〇〇戸被害。
18（月）●富士銀行千住支店で仏兵ら三人組が二八〇万円強奪（3月4日主犯の脱走仏兵逮捕）。
19（火）●青梅線で貨車暴走（青梅事件。共産党員ら逮捕。後に偶発事故と判明、43年全員無罪）。
●最高裁、有責の夫からの離婚請求不可と判決。
20（水）●東大での演劇公演に潜入した警官三人から学生らが警察手帳没収し実力排除（ポポロ事件）。
21（木）●新華社、米軍が北朝鮮で細菌散布と報道。
22（金）●総評、マーケット・バスケット方式（理論生計費）による賃金綱領草案を発表。
23（土）●勅使河原蒼風、ニューヨークの国際フラワーショウ審査のため渡米（4月23日帰国）。
24（日）●欧米一〇カ国、戦略物資の対共産圏禁輸協定。
25（月）●通産省、繊維不況の綿紡績各社に四割操業短縮を勧告（糸へんブーム終わる）。
26（火）●NATO、欧州軍創設と西独の加盟を決定。
27（水）●秋田赤十字病院、Rhマイナス型血液の乳児に対し血液総入れ替え手術に成功。
28（木）●米軍駐留条件を規定する日米行政協定調印。
29（金）●閣議、砂糖の統制撤廃を決定。昭和一五年以来一二年ぶりに自由販売（4月1日実施）。

▲三味線で「ダイナ」（3月10日）朝鮮戦争の国連軍慰問後に来日した米女優ベティ・ハットンが、東和映画社長・川喜多長政が東京・築地の料亭で催した歓迎会に出席、越路吹雪（右）と歌い上機嫌だった。

◀「戦争花嫁」90名渡米（3月7日）駐留米軍兵士と結婚、アメリカでの新生活を望む日本人女性たちが、軍の輸送船で横浜港を出発した。特別措置による米軍兵士との渡米受け付けは、この月19日までだった。

▼日劇ミュージックホール開場（3月16日）東宝社長・小林一三の「丸の内からハダカを追放せよ」の号令のもと、日劇小劇場を大改装、ストリップから「ヌード芸術」の大殿堂へと変身をはかった。

◀十勝沖地震起きる（3月4日）北海道東南部から三陸方面一帯をM8.1の烈震が襲い、全道で死者30人、家屋全壊1724戸を数えた。写真は津波によって、約300戸の民家が破壊された厚岸郡浜中村の海岸。

▶小河内村の山村工作隊手入れ（3月29日）国警都本部が元早大生ら23人を検挙。前年来、ダム建設で沈む村に住み、共産党地下指導部の指令で、工事反対を訴え、共産党の拠点作りを行っていた。

▲緑の羽根募金始まる（3月21日）国土緑化推進委員会と農林省が「講和記念植樹運動」の一環として推進。「一人一木、記念の植樹」をスローガンに1000万本の苗木代金調達をめざした。写真は渋谷駅前で。

昭和27年3月

1（土）●九州電力築上発電所が稼動。新鋭火力の端緒。
2（日）●第一回琉球政府立法院選挙。社大党が第一党。
●タンチョウヅルが特別天然記念物に指定される（29日朱鷺、サンショウウオも）。
3（月）●東北大が蔵王山で人工雪製造実験。少量降雪。
4（火）●十勝沖地震。三〇人死亡、一七二四戸全壊。
5（水）●オーストラリア、対日講和条約を批准。
6（木）●吉田首相、参院で自衛のための戦力は違憲ではないと答弁（野党の猛反発で10日訂正）。
7（金）●たま自動車（現・日産）、プリンス・セダン発表。
8（土）●GHQ、兵器製造禁止を解除（4月権限移譲）。
9（日）●西独首相、志願兵で五万人の部隊編成と言明。
10（月）●旭化成、米ダウケミカル社とサラン（合成樹脂）製造の技術援助契約を締結。
11（火）●群馬県横野村の回り舞台が世界最古と判明。
12（水）●東北大、人工降雪の顕微鏡撮影成功（世界初）。
13（木）●大蔵省、今年度貯蓄目標六八〇〇億円と決定。
14（金）●作家長者番付一位は吉川英治抜き谷崎潤一郎。
15（土）●連合軍専用電車が廃止され二等車に、駐留軍放送はFEN（極東放送網）になる。
16（日）●東京・有楽町に日劇ミュージックホール開場。
17（月）●GHQ、輸出管理権を全面的に日本に移譲。
18（火）●農業改良めざす「4Hクラブ」（会員七三万人）、初の全日本大会を開催。
19（水）●琉球米民政府、軍用地使用料の支払いを回答。坪一円八銭の低額で以後七年間紛争続く。
20（木）●フランチャイズ制初導入のプロ野球開幕。
21（金）●講和記念植樹の緑の羽根募金運動が始まる。
22（土）●竹中工務店、地下四階を地上で築造後沈める特殊潜函工法による日活国際会館を竣工。
23（日）●都内の自動車強盗増加、二二日までに前年の半数三七件、うち外国人が一六件、と新聞に。
24（月）●政府、重光葵ら一〇一一人の追放解除者発表。
25（火）●中卒就職決定八割で近年になく好調と新聞に。
26（水）●米国務省、全国に「情報センター」開設と発表。
27（木）●宗像誠也・勝田守一ら教育科学研究会を再建。
28（金）●政府、生活改善のためバターの大量輸入決定。
29（土）●国警、東京都小河内村の共産党山村工作隊を一斉手入れ。二三人検挙。
●文化財保護委員会、無形文化財を初指定。芸能・郷土芸能・工芸の一四五件。
30（日）●紡績の過剰女工二万人が「里帰り」と新聞に。
31（月）●新入学児童への国語・算数の教科書無償配付が全額国庫負担になる。

◀対日講和条約発効（4月28日）敗戦から6年8ヵ月ぶりの独立だったが、翌月の新聞の世論調査では国民の4割が独立は「形式だけ」。奉祝行事の人気もいまひとつ。写真は東京・上野で。

共同通信社

朝日新聞社

▲韓国で中国・北朝鮮軍捕虜が暴動（5月7日）巨済島収容所の700人の捕虜がドット所長を3日間監禁、捕虜虐待・虐殺停止などを要求。屋上に朝鮮民主主義人民共和国の国旗を掲揚した。

沖縄タイムス

▲琉球中央政府発足（4月1日）住民選挙による立法院をおき三権分立としたが、アメリカ民政府に従属、従来の軍事基地化政策に変更はなかった。写真は政府職員と比嘉秀平主席（前列右から3人目）。

共同通信社

◀鳥取大火（4月17日）鳥取市の動源温泉裏から出火、強風にあおられて、市街地の大半5228戸が全焼した。これを機に、同市は翌月公布の耐火建築促進法の指定都市となった。

▲沖縄戦没者の遺骨帰る（4月18日）遺品を合わせ589柱が横浜港に到着。司令官・牛島満、参謀長・長勇ら248名の氏名が判明。翌日、牛島夫人（左から二人目）ら遺族に引き渡された。

昭和27年4月

1（火）●手塚治虫「鉄腕アトム」、「少年」誌で連載開始。●琉球中央政府発足。初代任命主席に比嘉秀平。
2（水）●日華平和条約会談を再開（28日調印）。
3（木）●ラジオ東京、「リンゴ園の少女」放送開始。美空ひばりの挿入歌「リンゴ追分」がヒット。
4（金）●「子どもを守る会」準備会、低俗を理由に「横須賀タマラン節」追放運動を決定。
5（土）●高良とみ参院議員、日本人戦後初のソ連訪問。
6（日）●相撲協会、翌年から年四回の本場所と決定。
7（月）●国警、ピストルを躊躇せず使用するよう指示。●イタリア米から黄変米発見。移動禁止を通達。
8（火）●資源庁、前年度出炭実績は一八㌫増の四六四七万㌧と発表。戦後初めて四〇〇〇万㌧突破。
9（水）●日航機「もく星号」、伊豆大島・三原山の火口近くで墜落。三七人全員死亡。
10（木）●NHK、ドラマ「君の名は」の放送開始。●棟方志功、ルガーノ国際版画展に入賞。
11（金）●サマータイム制廃止（昭和23年実施）。
12（土）●労闘、破防法制定反対第一波ストを決行。
13（日）●ローマ法王、日本国民へのメッセージを放送。
14（月）●厚生省、生活扶助料改定、月額七二〇〇円に。
15（火）●北海道南西部に五五㍍の暴風。船舶遭難続出。
16（水）●米の戦後初代駐日大使にR・マーフィー任命。
17（木）●鳥取市で大火、五二二八戸焼失し中心街全滅。
18（金）●沖縄戦没将兵の遺骨五八九柱が横浜に到着。
19（土）●和歌山県教委、県議の部落差別発言に、同和教育振興のため五八二校に一斉休校を指令。
20（日）●東大構内を巡回中の警官を学生が拘束、警官はピストルを発射（第二次東大事件）。
21（月）●公職追放令廃止。岸信介ら追放解除にならなかった五七〇〇人も自動的に解除（28日実施）。
22（火）●電通省、東京・横浜に硬貨式公衆電話を設置。
23（水）●米、ネバダ砂漠で大規模な原爆実験演習。
24（木）●戦後初の北米行き日本客船「氷川丸」出港。
25（金）●マッカーサーライン撤廃、遠洋漁業が本格化。
26（土）●海上警備隊設置。定員六〇三八人。●GHQ、八幡製鉄など旧軍需工場八五〇返還。
27（日）●講和公電に備え外務省電信課員が全員宿直。
28（月）●対日講和条約・日米安保条約発効。●GHQ・対日理事会・極東委員会廃止。●NHK、放送終了時に「君が代」の放送開始。
29（火）●沖縄のアメリカ民政府、政治的意図を持たない条件で日章旗の掲揚を認める。
30（水）●二八㌫の電気料金値上げ認可される。

証言・あの日この日
丹羽文雄（47）

2月18日（月）　〈二時ごろ駅の改札附近で人だかりがしていた。東大教養学部の学生が四、五十人「再軍備反対・徴兵忌避」の署名運動をはじめた。人だかりは、その横で押問答をくり返す警官と学生をとり巻いていた。警官は、「道路交通取締り法違反」「無届」がその主張である〉（丹羽文雄「渋谷駅前の一週間」）

雑誌の仕事で渋谷をルポする丹羽の目にいきなり入りこんできた光景だ。〈押問答をくり返していると、突然、百名ほどの警官があらわれ「通行人は歩いて下さい」と云いながら、棍棒を両手に持ってぐいぐい押しはじめた。学生は、バラバラにされたが、そのバラバラの一つ一つを弥次馬がとり巻いた〉。中には、「警官帰れ。俺たちは大学生の話が聞きたいんだ」と声援を送るものも。二日後東大構内でいわゆるポポロ事件が起こる。（坪内祐三）

毎日新聞社

▲早大事件起こる（5月8日）「血のメーデー事件」捜査のため構内に入った警官を、学生が軟禁したため、翌日、警察予備隊が突入、無抵抗の学生ら100人が負傷した。写真は講義中に押しかけた警官隊。

▼荒川バラバラ事件（5月10日）東京・足立区の荒川放水路で男の胴体などを次々発見。小学校教諭の内妻（26）らが警官である夫の素行に悲観してのもの。写真は凶器を捜す捜査陣。

毎日新聞社

◀全国戦没者追悼式（5月2日）日中戦争開始から敗戦まで8年間に亡くなった240万人の霊を慰めるため、政府主催により東京の新宿御苑で開催。天皇が哀悼の言葉を述べた。

▼リッジウェイ元総司令官離日（5月12日）ＧＨＱの廃止にともない約200人の見送りを受け羽田を出発。前年4月マッカーサーの後任として来日、講和条約締結を前に占領行政の処理や朝鮮戦争にあたった。

共同通信社

毎日新聞社

◀作家・志賀直哉ら文化使節団、欧米に出発（5月30日）毎日新聞社主催でイタリアのローマをはじめ、欧米5ヵ国を訪問する3ヵ月間の旅だった。写真は出発前に行われた壮行会、左から志賀、民芸研究家の柳宗悦、陶芸家の浜田庄司。

昭和27年5月

1（木）●中央メーデーで皇居前広場に入ったデモ隊が警官隊と衝突。血のメーデー事件。
2（金）●新宿御苑で政府主催の全国戦没者追悼式。
3（土）●広島国税局、一二〇ヵ所の酒密造所を捜索。
4（日）●南九州に豪雨。二人死亡、三三七九戸浸水。
5（月）●関西主婦連、戦争玩具追放の「とむらい祭」。
6（火）●緒方竹虎、親善使節として東南ア歴訪に出発。
7（水）●財閥商号禁止解除。三菱・住友銀行など復活。
8（木）●早大で侵入警官を学生が軟禁（9日警察予備隊四個中隊が学内に突入し一〇〇人負傷）。
9（金）●日米・カナダ各漁業条約、東京で調印。●一人平均畳数は二三年より減少と都住宅調査。
10（土）●足立区の荒川放水路で男性のバラバラ死体発見（17日内妻とその母親の犯行と判明）。
11（日）●北洋サケ・マス漁船団、九年ぶり操業再開、ナイロン製の漁網を初めて使用。
12（月）●東京の神田明神で一〇年ぶりに神輿が復活。
13（火）●民間放送のスポンサーつき天気予報許可。
14（水）●浴衣の柄と質は戦前の八割以上回復と新聞に。
15（木）●日本航空、パイロット要員の国内訓練開始。
16（金）●建設省、第一期公営住宅建設三ヵ年計画を決定。総戸数一八万戸。
17（土）●日教組など、「日本子どもを守る会」結成。
18（日）●伊藤忠、丸紅など大阪四商社、輸入品の値下がりで各社一〇億円前後の損失計上、と新聞に。
19（月）●ボクシング・フライ級の白井義男、ダド・マリノを破り日本人初の世界チャンピオンに。
20（火）●東京初のトロリーバスが今井橋—上野で開通。
21（水）●東京で「国際生け花協会」発会式。
22（木）●全国市長会、戦犯の釈放を満場一致で決議。
23（金）●在日米軍、小松製作所など一五社に迫撃砲弾などの入札を行う（講和後初の兵器特需）。
24（土）●前進座、北海道赤平村で公演強行。三人逮捕。
25（日）●ダービーに五万人の観衆、クリノハナが優勝。
26（月）●韓国で非常戒厳令布告。野党一四七議員連行。●英米仏、西独とドイツ占領終結協定に調印。
27（火）●江東区枝川町の朝鮮人集落を警官隊襲撃。メーデー事件容疑で指導者ら二一人逮捕。
28（水）●長谷川如是閑ら、日米文化交流代表に決定。●厚生省、「結核死亡半減記念」式典を開催。
29（木）●IMFと世界銀行、日本の加盟を承認。
30（金）●政府、駐日ソ連代表部の消滅を通告（ソ連の対日講和条約調印拒否のため）。
31（土）●東独、東西ベルリンの境界線を封鎖。

▲**日中民間貿易始まる（6月1日）**北京の中国国際貿易促進委員会会議場で調印。貿易額は3000万ポンドで、英中貿易の3倍。写真は現地織物工場を視察の日本側代表・高良とみ。

共同通信社

▼**伊豆大島・三原山、自殺ラッシュ（6月）**昭和10年にピークを迎え、以降下降線をたどっていたが、「サン写真新聞」によると、この年5〜6月に心中事件が20件も発生した。写真は自殺した20歳前後の女性遺体。

毎日新聞社

▲**破防法反対闘争（6月17日）**「治安維持法の復活だ」と、労組・婦人団体・文化人や保守の改進党など幅広い反対運動が起こった。この日、都学連は東大安田講堂前で集会。結局、法案は修正され7月成立した。

▶**「原爆乙女」上京（6月9日）**広島で被爆した若い女性9人が羽田に到着。広島ピース・センターと作家・芹沢光治良らの斡旋で顔に残ったケロイドの診察・治療を東大病院で受けた。以降、彼女らへの援助運動は拡大、昭和30年には「原爆乙女の会」も発足した。

中日新聞社

▲**ダイナ台風、襲来（6月22日）**潮岬付近に上陸、100〜300ミリの豪雨をともないながら東海・関東を通過。写真は市電も立往生する翌日の名古屋市内の模様。死者・行方不明135人。被害は広範におよんだ。

◀**吹田事件起こる（6月24日）**大阪・吹田市で朝鮮戦争2周年記念前夜祭に参加の労働者・学生が基地粉砕、反戦を叫び「人民電車」と称し電車を占有して警官隊と衝突。111人が騒乱罪で起訴された。

毎日新聞社

毎日新聞社

昭和27年6月

1（日）●ソ連から中国入りの高良とみ・帆足計、北京で日中貿易協定に調印。総額三〇〇〇万ポンド。
2（月）●大分県菅生村で駐在所爆破。共産党員五人逮捕（菅生事件。警察官の犯行と判明）。
3（火）●天皇、独立を報告のため伊勢神宮参拝。
4（水）●国際新聞編集者協会、日本代表の入会を承認。
5（木）●通産省、関係文書の右とじ縦書きを改め、左とじ、左横書きにすると発表。
6（金）●文相の諮問機関として、中央教育審議会設置。
7（土）●会社更生法公布。再建可能な倒産企業を救済。
8（日）●五輪代表団（一一六人）派遣費、七三〇〇万円の調達にようやくめど、と新聞に。
9（月）●日印平和条約、調印。
●ルバング島残存旧日本兵は小野田寛郎と判明。
10（火）●國學院の北岡寿逸ら、憲法改正と軍建設声明。
11（水）●通産省、国産乗用車生産の合理化試案を作成。
12（木）●第二次大戦後インドネシア独立戦争に参加した元日本兵ら二〇人が帰国。
13（金）●改進党初代総裁に重光葵選任。再軍備を強調。
14（土）●国産の金ペン万年筆が一二年ぶり販売される。
15（日）●NHK、後楽園で「ラジオ体操第二」の発表会。
16（月）●宮内庁、皇室諸制度の改革着手を決定。
17（火）●全学連、二八校で破防法粉砕学生ゼネスト。
18（水）●国電日暮里駅の陸橋の床が抜け乗客が線路に転落、電車にはねられ八人死亡。
19（木）●北海道中標津町の中学で共産党員の教員の辞職要求し全校生徒の九割一〇六人が登校拒否。
20（金）●結核新薬ヒドラジッドの製造許可申請を開始。
21（土）●横浜地裁、占領目的阻害防止の政令三二五号の講和後適用は憲法違反と免訴判決。
22（日）●ダイナ台風。関東以西で一三五人死亡・不明。
23（月）●静岡県上野村の高校生が選挙違反を投書したため一家が村八分、と「朝日新聞」が報道。
24（火）●日本郵船の欧州定期航路再開第一船が出港。
●吹田事件。デモ隊が「人民電車」を運転。
25（水）●朝鮮戦争二周年で全国一二〇ヵ所で集会とデモ。各地で警官隊と衝突し一〇八人逮捕。
26（木）●東京都、調理師資格試験制度を導入。
27（金）●米で移民法改正。日本移民は年間一八五人。
28（土）●砂原美智子、パリのオペラ・コミック座に出演し「蝶々夫人」を歌う。
29（日）●米第五空軍司令官、二三日以来の空爆で北朝鮮の水力発電所一三すべてを破壊と言明。
30（月）●映画観客は邦画四割、洋画六割と都興行組合。

20世紀博物館

NHK放送博物館 東京・港区

記憶を呼び起こす〝ラジオの時代〟の懐かしい声を追体験

桑原茂夫

▶テレビの本放送開始時に、初めて受信契約を交わした人が所有していたテレビ。しかし、当時は街頭テレビが普通だった。

乙咩雅一

昭和二七年はラジオ全盛期だった。その放送時間になると、銭湯の女湯がからっぽになったという伝説を持つ、NHKの連続ラジオドラマ「君の名は」がこの年始まっている。また、戦後社会の諸相をぴりりと皮肉って、聴取者を大いに笑わせた三木鶏郎の「日曜娯楽版」が、その風刺性を剝奪され、娯楽性を強調した「ユーモア劇場」へと変身を余儀なくされたのも二七年だった。これはラジオが最もポピュラーなメディアであったことをものがたるエピソードだ。

その時代はもとより、大正から戦中・戦後を経て現代にいたるまでの、放送の実際を知るのに格好なミュージアムとして「NHK放送博物館」がある。それぞれの時代で最先端を走っていた種々の放送機器や、今に残る台本や音声、画面などで全体が構成されている。

たとえば、ラジオがマスメディアとして機能し始めた頃、よく用いられていた〝ダブルボタン型〟のマイクが、大きく重量感のある雄姿を見せている。しかも見せるだけではない。訪れた人がマイクに向かって音声を発すると、再生して聞くことができるようになっている。感度がよくて周囲の音も拾ってしまうので、ノイズが入るものの、かえって、昔ラジオから聞こえてきた音の雰囲気をそのまま味わえることになる。

同じ頃のラジオに特徴的なのは、スピーカーがついていなくて、イヤホンで聞くのが普通だったこと。スピーカー組込み式もあるにはあったが、これは〝トランク型〟と称されるほどの大きさで、価格も大正一四年のもので一〇〇〇円。大卒初任給が六五〜七五円の時代のこと、大変高価な機器だったわけだ。

この〝トランク型ラジオ〟をはじめ、時代を追って種々のラジオが館内に並ぶが、それぞれのラジオから、その時代にふさわしい声が聞こえてくる。

昭和八年に神宮球場から早慶戦の実況中継をした、松内則三アナの名調子が、当時の〝放送局型三号ラジオ〟から聞こえてきたり、昭和一一年のベルリンオリンピックにおける河西三省アナの有名な「前畑がんばれ！」の連呼も、同年に起きた二・二六事件の中村茂アナによる「兵に告ぐ」も、その当時のラジオから響いてくるのである。

▲終戦の玉音放送を吹きこんだのと同型の円盤録音機とマイク。円盤の中心から外側に向け音声が刻まれた。

▲ラジオ放送初期のポスター（昭和初年代のもの）。畑仕事の休憩時間に二人がそれぞれイヤホンで、鉱石ラジオを聞く様子。

昔の録音機も展示されている。NHKのかつての人気番組だった「録音ニュース」も、録音機の充実と、それを扱う技術者の、ほとんど職人芸のテクニックがあって、はじめて可能だったのである。

録音というと、終戦を告げた「玉音放送」を録音したのと同型の録音機と、貴重な玉音の円盤も展示されていて、歴史を目のあたりにすることになる。

ほかにもテレビ放送開始以降の歴史も追えるのは言うまでもない。それにしても、放送は記憶を呼び起こす。ここは電波ならぬ記憶の波をサーフィンして楽しめるミュージアムなのであった。

●NHK放送博物館
東京都港区愛宕二―一―一
☎〇三―五四〇〇―六九〇〇
JR新橋駅下車、徒歩一〇分、地下鉄日比谷線神谷町駅下車、徒歩五分
開館時間＝九時半〜一六時半
休館日＝月曜日（月曜が祝日、振替休日の時は開館）、年末年始
入館料＝無料

▲終戦直前に流行したラジオ（右）と、昭和26年に登場したテープ録音機。これで〝街頭録音〟などもしやすくなった。

ベストセラー
“食と性”の流れに注目！安田徳太郎『人間の歴史』

敗戦で失われた“自分”を、もう一度足元からとらえなおしてみよう、という意図のもとに書かれた歴史の本が、読者の支持を受けベストセラーになった。歴史アカデミズムとは無縁の安田徳太郎が書き下ろした『人間の歴史』（全六巻）だ。第一巻は昭和二六年一〇月に刊行され、翌二七年にはトップに躍り出た。

第一巻の副題は「食と性の歴史」で、著者の「人間の歴史というのは、けっきょく、わたくしたちの身ぢかの生活の歴史である」とする考え方が前面に押し出された。これは、それまでの歴史書にはない考え方であり、読者にとっても比較的楽に読めるという利点を生んだ。内容的には、進化論の成立過程や、食と性の大きな流れをテーマにしており、先史時代の人間が生き生きと描かれた。

一方、サラリーマンの日常生活を戯画化した、源氏鶏太のユーモア小説『三等重役』も大いに売れた。「サンデー毎日」連載中から人気があった小説で、一地方都市の一流会社が舞台。GHQ（連合軍総司令部）による追放処分でその座を追われた社長や重役に代わって思いがけず社長となった男が、次第にそれらしくなっていくストーリー。そこで起こる出来事は、実際のサラリーマン社会でもよくあることばかり。社内恋愛あり、社員旅行での乱痴気騒ぎあり、バーのマダムとの浮気あり、それぞれに時代相が反映されていて、かっこうの風俗小説ともなっていた。

なおこの年、大衆娯楽雑誌「明星」が創刊された。先行する「平凡」を追って発売されたが、芸能の話題が中心となっていて、この方面は、いち早く敗戦から立ち直り元気になっていたのである。

●昭和27年のベストセラー

順位	書名（著者／出版社）
1位	『人間の歴史』（全6巻／安田徳太郎／光文社）
2位	『三等重役』（源氏鶏太／毎日新聞社）
3位	『ニッポン日記（上・下）』（M・ゲイン／筑摩書房）
4位	『千羽鶴』（川端康成／新潮社）
5位	『生きている日本史』（高木健夫／鱒書房）
6位	『泣虫記者』（入江徳郎／鱒書房）
7位	『風と共に去りぬ』（全3巻／M・ミッチェル／三笠書房）
8位	『ものの見方について』（笠信太郎／河出書房）
9位	『新唐詩選』（吉川幸次郎・三好達治／岩波書店）
10位	『源氏物語』（全12巻／谷崎潤一郎／中央公論社）

全国出版協会出版科学研究所

▲『人間の歴史』（230円）

日本近代文学館提供

▲『三等重役』（180円）

▲「明星」（集英社、90円）

スターと名場面
あらためて人生の意味を問う「生きる」「本日休診」への共感

戦後のあわただしさがまだ残る時代に、あらためて人生を考えさせるような作品が人気を集めた。

「生きる」（黒澤明監督）では、癌にかかって死をさとった役人（志村喬）が、それまでの怠惰な人生に別れを告げ、世のため人のためになることに全力を傾けるという筋書き。志村喬のいささか過剰と思えるほど真に迫った演技が、ドラスティックになっていた世の中に、感動を巻き起こした。

井伏鱒二原作の「本日休診」（渋谷実監督）でも、娘ムコに院長の座を譲った老医師（柳永二郎）が、病院のたまの休診日に一人残って、医療に専心する“医は仁術”ぶりが、共感を呼んだ。

一方、時代劇では溝口健二監督の「西鶴一代女」が、その美しい画面と清新なエロチシズムで映画ファンを魅了。若き三船敏郎と田中絹代のコンビも、これからの映画界の隆盛を予感させた。

この年ほかに次のような映画が話題になった。かっこ内はおもな出演者。

「稲妻」（高峰秀子）／「真空地帯」（木村功）／「虎の尾を踏む男達」（大河内傳次郎）／「河」（パトリシア・ウォルターズ）「令嬢ジュリー」（アニタ・ビヨルク）／「セールスマンの死」（フレドリック・マーチ）「陽のあたる場所」（モンゴメリー・クリフト）

黒澤プロ／東宝提供

▲「生きる」で主役の志村喬（右）は、けれん味なく生きる娘（手前・小田切みき）に励まされる。

松竹提供

▶「本日休診」で老医師（右・柳永二郎）に指を切れと迫る男（中・鶴田浩二）と、それを止める恋人（左・淡島千景）。

東宝提供

▲「西鶴一代女」で、女の一生を演じた田中絹代（左）と、その悲恋の相手役、三船敏郎（右）。

モノ語り'52
「マジックインキ」「ホッチキス」「ぺんてるえのぐ」画期的な文具品が次々と普及！

▲紙綴器がホッチキスに　戦後すぐ発売された紙綴器「ヤマコースマート」は卓上型で、重量もあるタイプだったが、昭和27年、同じ山田興業（現・マックス）から、ハンディタイプのホッチキス「SYC・10」が発売され人気を呼んだ。小型・軽量のうえ、指先の力で綴じることができるという点で、まさに画期的だった。1個200円と高値だったが、オフィスから、学校、家庭へと普及した。なお昭和29年に「MAX・10」と名称変更している。

▲はじめは売れなかったマジックインキ　原型はアメリカ産だが、これを日本人向けに改良した「マジックインキ」が1本80円で内田洋行から発売された。しかし、筆記具にしては高価なのと、書いたらすぐキャップをはめなければならないなどといった、なじみにくさから不評で、翌年には値下げするほどだったという。ところが、当時の人気マンガ家・長崎抜天がみずから宣伝を買って出て状況は一変、大評判となり、超ヒット商品に大化けした。

▲風船ガムが爆発的人気　終戦後、急速に普及したものにチューインガムがある。ガムを噛むのが新しいファッションにもなったが、昭和27年4月、ロッテが発売した風船ガム「カーボーイ」は、珍しい球形のガムで箱に入っていた。1箱5円、味のよさもあって、爆発的人気を呼んだ。この年、砂糖の統制が解除されたことも幸いした。翌年には宣伝カーを町に繰り出すなど、積極的な宣伝で、新しいガムの時代を到来させたのである。

▲絵の具もずいぶんよくなった　大日本文具（現・ぺんてる）が発売した「ぺんてるえのぐ」がヒットした。水彩絵の具だが、水加減を工夫すると、油彩絵の具のように粘りが出て、画用紙の上に盛り上げて描くこともできた。絵を楽しむゆとりが出てきた人々にこたえる文具だった。12色170円。20色は280円。

▶目の前の果物がすぐジュースに　ジュースに贅沢品のイメージがまだ残っていた時代に、簡単にジュースが作れる「ミキサー」が三菱電機から発売された。果物を適当な大きさに切って入れ、スイッチをオンにしさえすれば、自動的にこれを砕いてフレッシュジュースを作ってしまうという、まさにファンタジックな機械だった。

◀いよいよテレビの時代を迎えて　テレビ放送が始まったのは昭和28年2月1日。いろいろなタイプの受像機のうち「17インチ白黒テレビ」が昭和27年に松下電器産業から売り出された。初期の街頭テレビなどに用いられ、主流となったのはこのタイプだった。ただし価格は29万円。大卒公務員の初任給が7650円の時代だったから夢の機械だった。なおテレビ放送開始時の受信契約数は1000に満たなかった。

▶チクワとマグロが合体したソーセージ　魚肉の加工品としてチクワが全盛だった時に、それに代わるものを模索していた日本水産が「ツナ・ソーセージ」を開発、発売した。これは母船式マグロ漁業で大量に捕獲されたマグロを、どのように生かすか考えるプロセスで生まれた商品で、チクワ製造技術と、マグロ加工の技術を結びつけたもの。防腐剤や包装資材のいいものが使用許可になったことも、開発の背景にある。

人物クローズアップ

白井義男（二九）

「ウェークアップ、ヨシオ！」のひとことで初の世界王者に

昭和二七年五月一九日は、戦後の日本にとって、忘れられない日のひとつである。この日、白井義男と世界フライ級チャンピオン、ダド・マリノの、日本初の世界タイトルマッチが後楽園球場の特設リングで行われた。四万人の大観衆で膨れ上がったリングに姿を現した白井は二九歳、チャンピオンのマリノ三六歳。午後八時半に始まった試合は、一五ラウンドを戦い、判定に持ちこまれたが、白井のマネージャーであるアルビン・カーン博士の巧妙な作戦と、七歳という年齢差が勝敗を分けた。

カーンの作戦は、前半をおさえ、後半に勝負をかけるものだった。試合は、前半ほぼ五分五分で推移した。第七ラウンド、白井にピンチがおとずれる。マリノの強烈な左フックが白井の顎をとらえ、白井は脳震盪を起こした。ゴングに救われた白井の姿は、夢遊病者のようだった。

「私にはまったく記憶がないんですが、コーナーに戻った私の背中を、カーン博士がビシッとたたいたんだそうです。その後、私に聞こえてきたのが『ウェークアップ、ヨシオ！』という言葉でした。これで私は蘇りました」

白井は、その時のことをこう語る。

そして、後半、スタミナの切れたマリノを一方的に攻めまくった白井は、日本初の世界チャンピオンに輝いたのである。

白井義男は、大正一二年一一月二三日、東京市荒川区三河島町生まれ。本格的にボクシングを始めたのは、昭和一八年の一一月、東京の御徒町にあった「拳道会」へ入門してからだった。しかし、それも長くは続かず、一九年五月海軍に応召、特攻機の整備兵のまま終戦を迎える。

白井に大きな転機をもたらしたのが、昭和二三年七月一五日、東京・木挽町の日拳ホールにおけるカーンとの出会いだった。すでに引退寸前だった白井の素質を見抜き、GHQ（連合国総司令部）天然資源局の高官という身分のまま白井のマネージャーを買って出たカーンは、ボクシングが趣味で、スポーツ生理学にも通じていた。来る日も来る日も、基本動作の繰り返しと、徹底した科学的トレーニングが行われた。白井が日本フライ級の王座につくのは翌二四年一月、そして一二月にはバンタム級の王座も獲得、二階級制覇をなしとげるのである。

昭和二七年五月一九日は、日米講和条約の発効からちょうど三週間目にあたる。タイトルマッチを翌日に控えた一八日夜、カーンは白井に、次のように語っている。

「ヨシオ、キミは勝たなければならない。日本は戦争でアメリカに負け、自信を失っている。その失われた自信を、キミの勝利で呼び戻すのだ。日本人全体のために戦うのだ」

白井はこの言葉を、今もはっきりとおぼえているという。

白井はその後、タイトルを四度防衛した後、アルゼンチンのパスカル・ペレスに破れ、三〇年に引退。評論家などを経て、現在「白井・具志堅スポーツジム」会長として後進の指導にあたっている。

また、カーンは生涯独身のまま、白井夫妻と生活をともにし、昭和四六年一月、白井に見とられて世を去った。

◀接戦のすえ判定勝ちをおさめた白井は、カーン博士に抱きつき、むせび泣いた。同年11月リターン・マッチで再びマリノを降し初防衛。

▼東京・北区滝野川の自宅でくつろぐ白井夫妻とカーン博士。家屋は大工だった白井の父が、腕によりをかけて建てたもの。

共同通信社

決定的瞬間

催涙ガス弾、拳銃弾を乱射！講和条約発効から三日後「血のメーデー事件」の修羅場

◀午後2時35分、警官隊が最初の突入を開始。デモ隊は楠公銅像前まで後退するが、3時25分反撃に転じて2度目の衝突が起こった。

川島浩

惨劇は、皇居前広場になだれこんだデモ隊への警官隊の突入で始まった。

催涙ガス弾が飛び、デモ隊は算を乱して逃げまどう。逃げる群集の背後から警棒が容赦なく振りおろされた。

昭和二七年五月一日の午前、第二三回メーデーが、明治神宮外苑を会場に主催者側発表で約四〇万人を集めて行われた。サンフランシスコ講和条約が発効し、日本が独立国として再スタートを切った三日後である。

式典を終えた参加者は、東・西・南・北と中部の五グループに分かれ、デモ行進に移った。このうち日比谷公園に向かったのは南部、中部の二グループだった。

午後二時頃、日比谷公園に到着した中部デモ隊の先頭集団が、「実力をもって人民広場（皇居前広場）へ」と後続に呼びかけながら再び行進を開始。これに呼応したデモ隊の一部がそれに続く。警官隊は道を開き、無届けのデモ隊は馬場先門を通って、何なく二重橋の木柵に達した。

「デモ隊は数がそろったところで、『人民広場を解放した』と気勢をあげ解散する。これ以上何も起こらない」

川島浩（二七）は、現場の様子からその後の成り行きをそう判断した。当時の川島は、フリーになってまもない報道写真家だった。

「フィルムが底をついたこともあって、帰途につこうと歩き始めた矢先の警官隊の突入でした」

▲拳銃を水平撃ちする警官。たちまち重軽傷者多数の〝血のメーデー〟に。 毎日新聞社

突入は川島同様、広場の群集にとっても、予期せぬものだった。

フィルムを装塡（そうてん）した川島が再び現場に立ったのは、二度目の衝突の直前である。

横一列に隊列を組んだ警官隊が「かかれッ！」の号令を合図に動き出す。後続を加え態勢を立て直したデモ隊も前進し、間合いを詰めた。警察の隊列と並んで走る川島は、激突の瞬間をとらえ、振り向きざまにライカのシャッターを切った。それがこの写真である。

警棒が振りおろされ、デモ隊もプラカードや旗竿、野球のバット、竹槍、棍棒（こんぼう）、そして投石で応戦した。続々と数を増すデモ隊。増援の警官隊が駆けつける。一進一退を繰り返す中で混乱は増幅され、一帯は催涙ガスが立ちこめ、銃弾が飛びかう修羅場（しゅらば）へと変わっていった。

三度にわたる衝突を経て、午後六時すぎに混乱が終息するまでに使用された催涙ガス弾は七四個。発射された拳銃弾は七〇発、うち二二発が人間の体を引き裂いた。後に残されたのは、デモ隊側の二人の死者と約一五〇〇人の重軽傷者、そして約八〇〇人の負傷した警察官だった。

逮捕者は一二三二人。この中の二六一人が騒乱（擾乱（じょうらん））罪や公務執行妨害罪で起訴され、二〇年七ヵ月にもわたる長期の裁判が行われることになる。一六人に懲役六ヵ月から四ヵ月（執行猶予一年）の判決が下されたこの長期裁判は、人権問題もからんで、裁判そのもののあり方も問われることになった。

この混乱を騒擾事件ととらえるか、それとも警察側の違法な権力行使と見るか。「血のメーデー事件」の評価は、なお分かれたままである。

美の出会い

東京駅八重洲口のオフィス街に人々の心を癒すオアシス ブリヂストン美術館オープン！

昭和二七年一月八日、東京駅八重洲口を出て数分のオフィス街の中心に、戦後初の本格的ビルディングが竣工した。ブリヂストンタイヤの本社ビルである。そのビルの二階、四〇〇坪のスペースには、ブリヂストン美術館があてられ、同日、開館式が行われた。一般公開は一一日からである。

ブリヂストン美術館の開館は、倉敷の大原美術館に比べられる質の高い所蔵品と、交通の便のよいオフィス街での立地といった点から、美術愛好家だけでなく、一般の人々からも好意と関心をもって迎えられた。作家の武者小路実篤は、「産業経済新聞」に「自分達が若い時から夢見ていた小美術館が現実として立派に出来上がっているのだ」（一月二三日）と書いている。

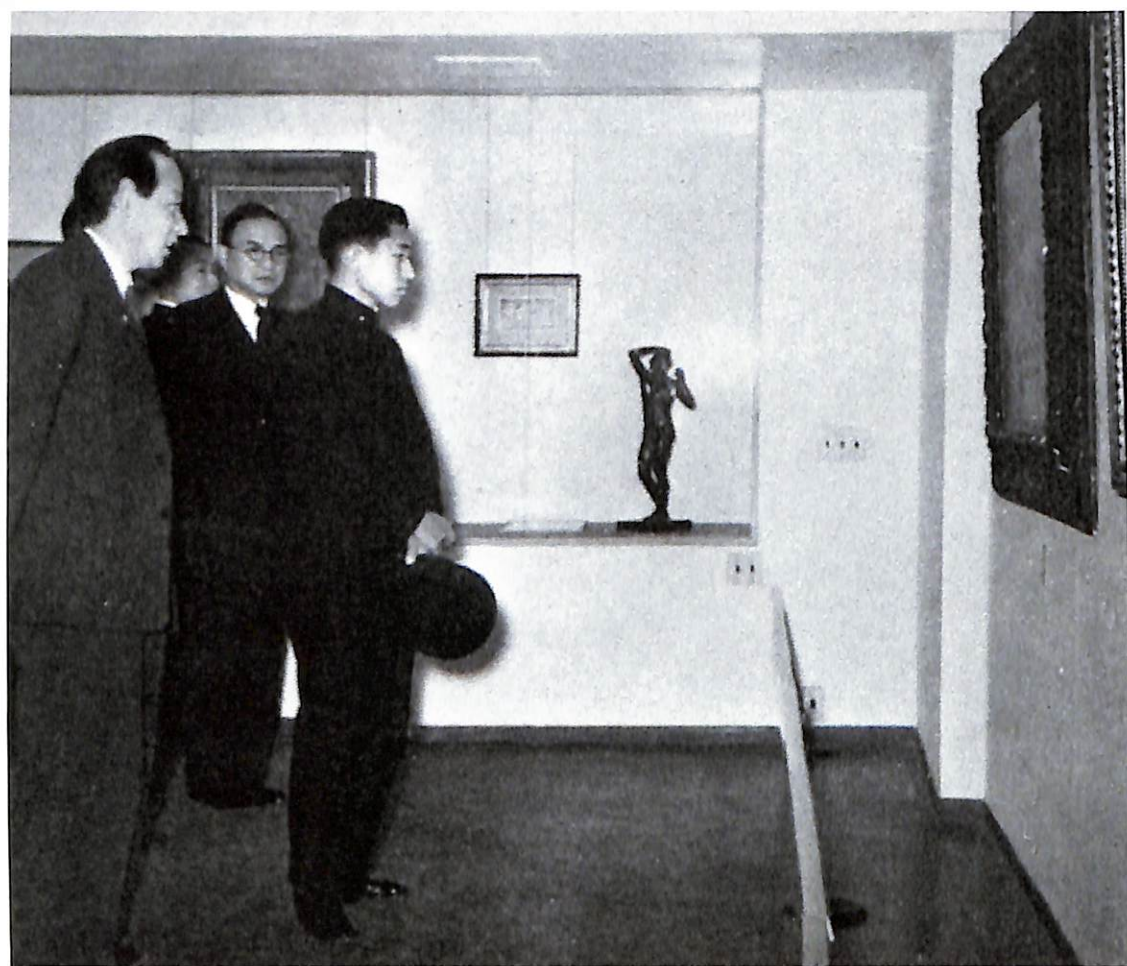
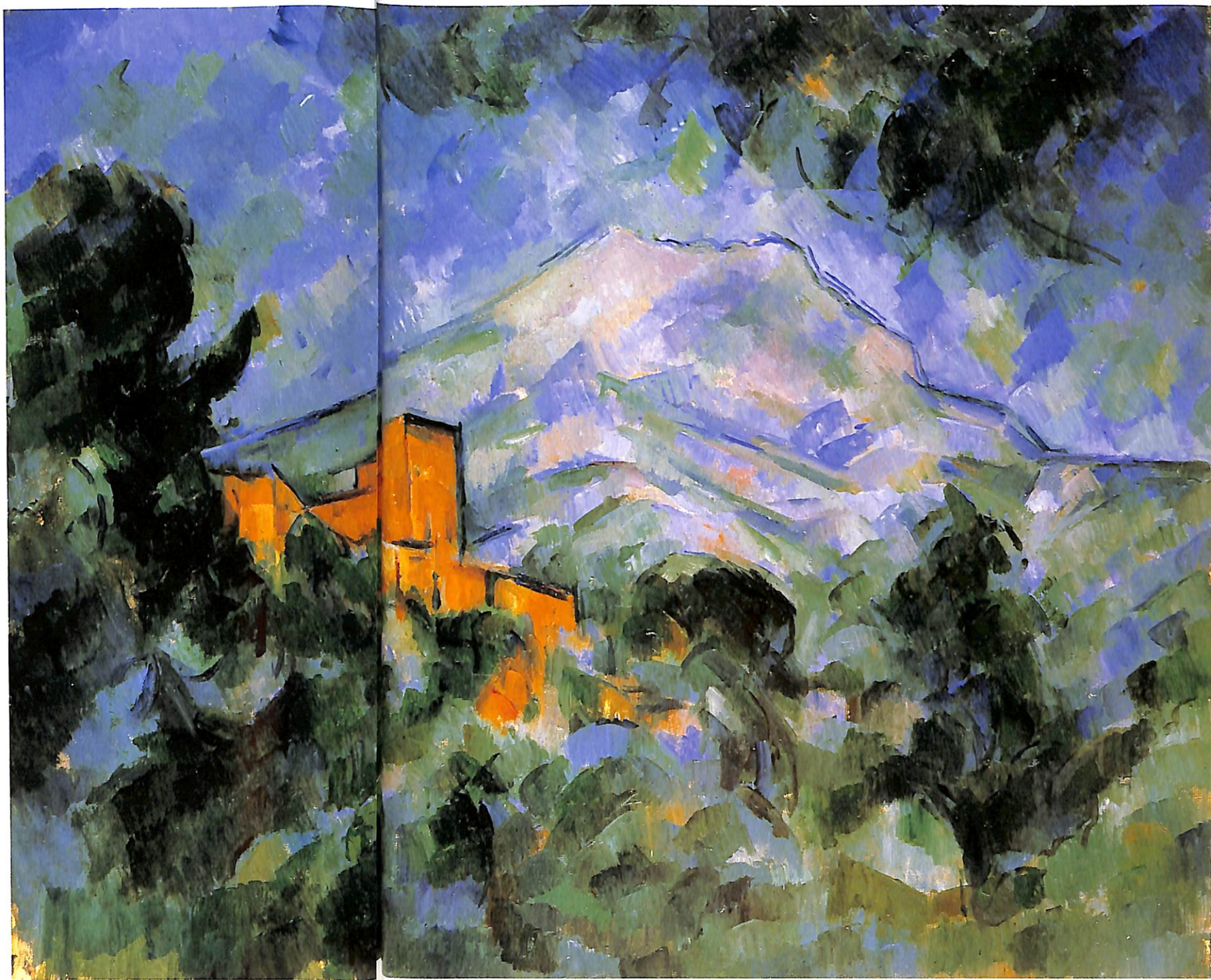
また画家の伊原宇三郎は「東京新聞」に「待望の石橋美術館がいよいよ開かれた。まづもって私達は深い感謝を奉る。これは一富豪の誇示でなく、傑れた美術品は宝石の如く個人の死蔵は許されないという、日本では希有の自覚による石橋正二郎一〇年の宿志の実現である」（一月一二日）と述べるなど、新聞各紙はこぞって、開催の喜びとブリヂストンタイヤ社長・石橋正二郎（六二）への賛辞を表した。

開館記念展示作品は、セザンヌの「サント・ヴィクトワール山とシャトー・ノワール」をはじめ、モネの「睡蓮」などの外国作品五五点、浅井忠の「収穫」、青木繁の「海の幸」など国内の作家作品五五点、それにロダンの彫刻「青銅時代」など四点が展示された。

石橋正二郎は、開会式の挨拶で美術館の創立とみずからのコレクションについて述べている。それによると石橋が絵画の収集を始めることになったのは、小学校の時の図画の教師だった坂本繁二郎のひとことが影響しているそうだ。坂本が後年、石橋に「我々の先輩・青木繁は大天才画家で、郷土・久留米の非常な誇りである。その作品も久留米地方に多く散らばっているが、将来残らぬようなことがあっては残念で、何とか集めてもらいたい」と話したことをきっかけに、石橋は収集を始めたのである。

青木繁にはじまる収集は、藤島武二、黒田清輝、坂本繁二郎、佐伯祐三、藤田嗣治、安井曾太郎、梅原龍三郎、小出楢重……と、日本近代の代表的な作家へと広がっていった。その一方で、印象派の作品を熱愛していた石橋は、かつて実業家の松方幸次郎や美術評論家の福島繁太郎らが収集していた外国の作品のコレクションに力を注いだ。こうしてコローやマネ、モネ、セザンヌ、ルノアール、マチスら一九世紀から二〇世紀初頭にいたる画家の代表的な作品が集められることになった。″近代絵画の父″と言われるセザンヌの「サント・ヴィクトワール山とシャトー・ノワール」は、フランスの文化相アンドレ・マルローが「セザンヌ芸術の最高峰のひとつだ」と絶賛するほどの作品である。

これらの精選された珠玉のコレクションに感動したフランスの美術史家ベルナール・ドリヴァルとアンドレ・マルローは、パリでの展覧会開催を希望し、一九六二年に「東京・石橋コレクション所蔵コローからブラックに至るフランス絵画展」（フランス絵画の里帰り展）がパリ国立近代美術館で開催され、フランス人の間に感動と興奮の声が沸き上がった。

現在、ブリヂストン美術館には一日平均二九〇人ほどの人が訪れ、東京のオアシスに来たような気分で心を癒している。また、オープン時から続けられている土曜講座は、平成九年七月現在で一七九七回を数え、美術を中心とした内外の文化一般を紹介し好評である。

▲オープン翌月の22日に、明仁皇太子（現・天皇）が鑑賞に訪れた。

石橋財団ブリヂストン美術館蔵（4点とも）

▶セザンヌ「サント・ヴィクトワール山とシャトー・ノワール」。1904～1906年。油彩、66.1×82.1センチ。セザンヌは、南仏にあるこの山を何度も描いている。

▶展示作のレベルが高く国際的にも注目されていたので、英語版のカタログも作られた。

◀開館当日のブリヂストンビル全景。中央区京橋のオフィス街の中心に位置する。

奥村健太郎

「現場」を歩く 菅生

裁かれなかった権力の犯罪をめぐる地元の〝記憶〟

山本徹美

昭和二七年六月二日午前一時頃、大分県直入郡菅生村（現・竹田市）にある駐在所が、何者かによって爆破された。

現場付近にはなぜか二時間以上前から五十人余の警察官が待機、駐在所の向かいには新聞記者まで身をひそめていた。が、爆破を目撃したのは一警察官のみ。

「二人の人影が駐在所に近づき、そのうち一人が正門前にあった軒灯に手を伸ばして明かりを消した。アラッと、思って行動をみていたところ、一人が燐寸をすってシュウと言うものに点火し、それを駐在所の中に投げ込んだ」（公判調書）

この信憑性は審理で物議を醸す。爆破容疑（爆発物取締罰則違反）で逮捕されたのは二人の共産党員だった。ほかにも雷管や導火線を隠し持っていたとして村内在住の共産党員三人が逮捕された。

三〇年七月、第一審の大分地裁では五人全員有罪の判決。第二審福岡高裁の公判中、現職警官が「市木春秋」なる偽名で共産党員になりすまし、この事件を工作していたことが発覚。東京都内に潜伏中だった市木こと国警大分県本部警備課巡査部長・戸高公徳（当時・三三歳）が発見されて証人に呼ばれ、上司の命令でダイナマイトを渡した、と証言した。が、被告人側はダイナマイト授受を否定、すべて警察の自作自演と主張した。高裁は爆破事件に関しては全員無罪とし、双方が上告、三五年一二月、最高裁は上告棄却した。

▲菅生は、野菜や葉タバコの栽培がさかんな農業地域。駐在所跡は、現在個人宅の倉庫に。

共同通信社

▲ダイナマイトで爆破された菅生村巡査駐在所。

爆破犯人は不明のまま

菅生事件の現場を訪ねてみた。阿蘇山麓の台地にあり、野菜畑が拡がっている。駐在所のあった場所には民家が建っていた。隣に住む堀富昭氏（六一）に当時の記憶を訊いた。

「事件があって四～五年間は、別府温泉に向かう観光バスがここに停まっては、お客さんが降りて見学していった。その後、竹田市と合併して駐在所が移転し、跡地が売りに出されて家が建ち、裏に国道が抜けて交通量が減ると、事件のことを持ち出す人もおらんこつなったねぇ」

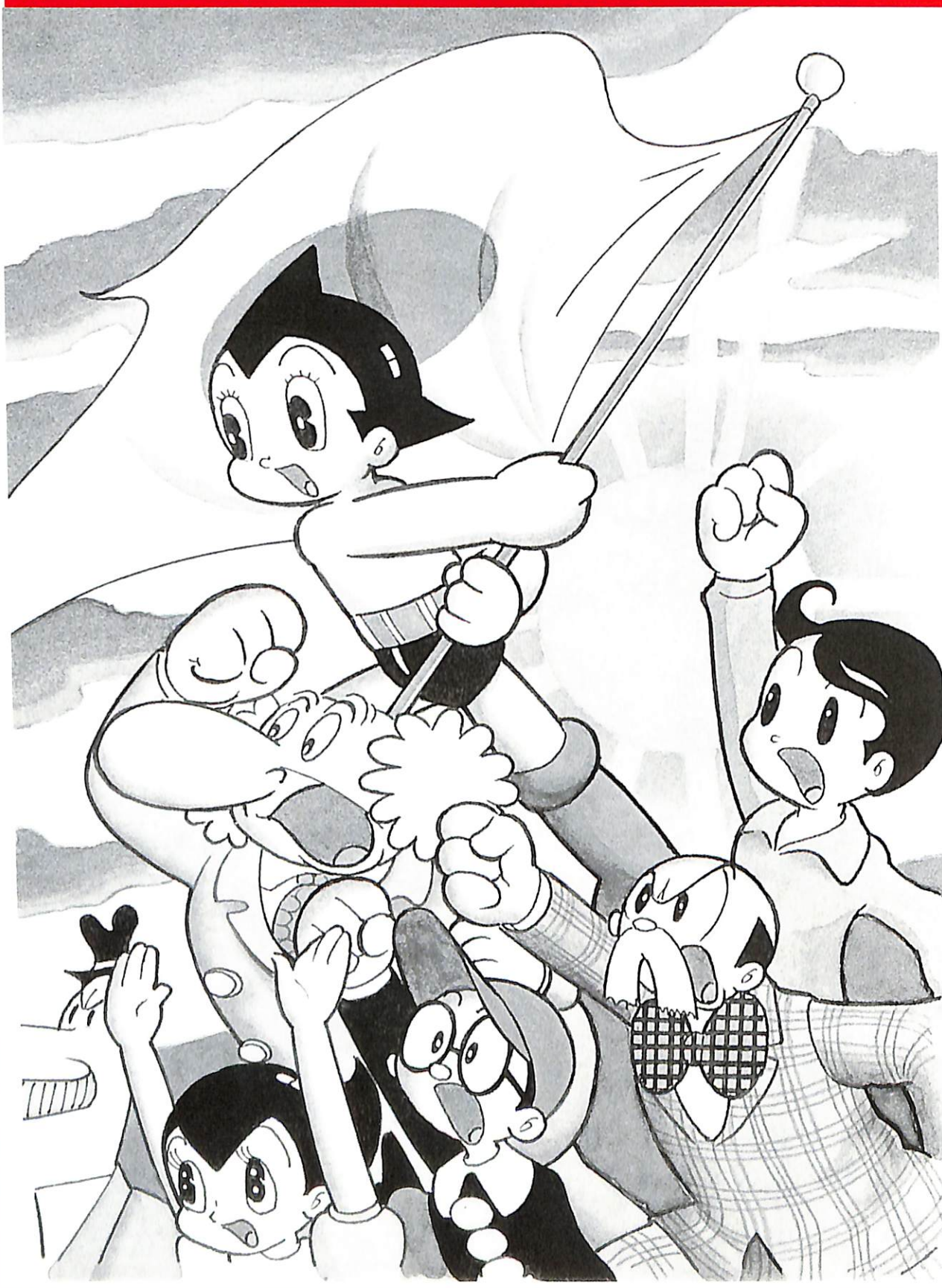
事件発生時、共産党豊肥地区委員長だった山本澄氏（七二）は爆破容疑で逮捕された党員たちの無実を確信していた。

「市木という公安のスパイは、共産党の入党申し込みに、三池染料で労働闘争の経験あり、と記入していた。彼は村内にあった製材所にいたが、その経営者は村会議長兼農協長で、菅生村開拓助成金を不正使用していた疑いがあった。党員がその糾弾と、米軍基地反対運動などを展開したのが権力側にとって不都合で、隠滅工作に出たようだ。党員の無実が証明されても、警察に睨まれるのをおそれて住民にはビラさえ受け取ってもらえなかった。現在も菅生は党員不在地区です」

竹田出身の日本共産党大分県委員会・阿部浩三委員長（六〇）は言う。

「警備公安警察の犯罪が暴かれた重要事件。発祥地に記念碑の建立を計画中です」

駐在所はすでになく、その頃から残っているのは枯れそうなカエデの古木のみ。結局、爆破犯人は不明のままである。

差別問題にまで目を向けた社会派マンガ 手塚治虫が生んだ最大のヒーロー 「鉄腕アトム」デビュー！

◀「鉄腕アトム」の主要登場人物。左から田ワシ警部、妹・ウランちゃん、お茶の水博士、タマオ、ヒゲオヤジ、ケンー。ほかに天馬博士、アトムの両親、弟・コバルトなど。
手塚プロダクション提供

戦後マンガ界最大のヒーロー「鉄腕アトム」の連載が、昭和二七年四月一日からスタートした。アトムはその後、テレビのアニメ作品となり、さまざまな商品に起用される。それは一方で、作者・手塚治虫の手から離れてキャラクターが一人歩きしていくプロセスでもあった。

核実験のニュースから心優しい科学の子誕生

人間の心を持ったロボット少年「鉄腕アトム」が、昭和二七年、雑誌「少年」の連載でデビューした。作者は「ジャングル大帝」などを発表し、すでに一部で熱狂的な人気を持つ手塚治虫（二三）だった。「少年」編集長だった金井武志は連載開始までの経緯をこう語る。

「マンガに新風を吹きこむ作家を探そうと思い、貸本屋から作品を集め、検討しました。その中に手塚さんの作品があった。新鮮で童心にあふれ、モダンな画風

▶連載第一回の『鉄腕アトム』。手塚が六〇種類の原案を作り、愛読者の意見を聞き画を描いてもらうなどして、アトムのスタイルが完成した。

光文社提供

で、プロットも構成も達者。またカットバックなど映画的手法も駆使していた。この作家だと思いましたが、どんな人物かがわからない。調べてみたら医大の学生だというんで、手紙を出し、初めてお目にかかった。

手始めに昭和二六年の四月から、『アトム大使』を連載してみましたが、ストーリーが複雑で、評判も今ひとつでした。しかしそこに脇役でアトムが登場していた。このロボットに人間らしい感情を与えて、読者の少年たちと心のかよいあう主人公に、と構想も新たに始まったのが『鉄腕アトム』だったんです」

アトムのヒントは、南太平洋で行われた核実験だった。「これを平和利用できたら」と考えたと、手塚は自伝『ぼくはマンガ家』で書いている。

交通事故で愛児・トビオを亡くして悲嘆にくれる科学省長官の天馬博士が、渾身の力をふりしぼって研究を重ね、愛児そっくりのアトムが誕生。心優しい科学の子、一〇万馬力のスーパーパワー、六〇ヵ国語を話せるなど、七つの威力を持ったロボットだった。ところが機械の悲しさ、溺愛するアトムがちっとも成長しないのに腹を立てた天馬博士は、こともあろうにアトムをサーカスに売り飛ばしてしまう。そこを偶然、科学者のお茶の水博士に助けられて……がストーリーの始まりであった。

▲連載がスタートした、昭和27年4月号の「少年」。

光文社提供

「初期の『鉄腕アトム』は、テレビアニメと違って爆発的な人気を博したわけではない。手塚さんは、初期のアトムで差別問題、人種問題といった社会的なテーマを、ストレートに描いた。それだけに子どもにとっては、レベルの高いものだった」と解説するのは大阪国際女子大学の竹内オサム教授だ。手塚自身「人間はロボットを作っても、異文化や異民族に差別感を持つのと同様に、ロボットを差別するだろう。アトムのそもそものモチーフもそこにあった」と発言している。同教授はその意味で、初期のアトムには手塚の伝えたかったテーマが素直に反映されていたのでは、と推測している。

手塚にとって、「少年」というマス媒体に初登場したことの反響は大きく、多い日には一日一〇〇通ものファンレターが舞いこむようになった。当時、「マンガは俗悪」という評価が一般的だった。だが、子どもたちは、手塚の登場によって、「このマンガの作者は医学博士なんだから」といういいわけや説得の言葉を獲得してもいる。

そして、アトムの連載は一七年間にわたって続けられたのである。

だが、アトム人気が全国ネットで大爆発するのは、連載開始から約一〇年経った昭和三八年に、テレビアニメがスタートしてから。テレビ初の本格的なアニメは、谷川俊太郎作詞の主題歌「〽空を越えて星の彼方」とともに、圧倒的な人気を呼ぶ。視聴率は当初から三〇％に迫り、最高視聴率は四〇％を突破した。

人気が沸騰するにつれ平板な勧善懲悪ものに

こうしたアトムの人気は、国内だけにとどまらなかった。日本での放映から八ヵ月後にはアメリカの三大ネットワークの一つ、NBCが放映権を取得、ニューヨークでは六時半からの時間帯で最高の視聴率を示しただけでなく、全世界二〇ヵ国以上で放映された。また、アトムの版権を取得した企業が「アトム会」を結成し、その数は大小五〇社にのぼっていた。昭和四〇年の「虫プロ」の収入約三億円のうち、版権収入が三分の一に達していたという。

だが、沸騰するアトム人気に反比例して、手塚の表情は沈みがちになるのだった。アトムが作者の手を離れ、商品キャラクターとして一人歩きを始めたばかりでなく、作品の内容にも制約をもたらしたからである。原子力の平和利用と差別に目を向ける社会派マンガだったアトムが、平板な勧善懲悪ものに変容を迫られていく。

手塚はそうしたアトムにほとほと嫌気がさしていたらしく、「ぼくはアトムをぼく自身の最大の愚作の一つとみているし、あれは名声欲と金儲けのために書いている」(「話の特集」昭和四一年六月号)と自虐的な文章を残している。

手塚の没後も、アトムを始め「ジャングル大帝」「リボンの騎士」「火の鳥」などの人気はいっこうに衰えない。講談社版全集三〇〇巻は今も売れ続け、また、アトムが誕生した二〇〇三年の完成をめざし、首都圏にテーマパーク「手塚治虫ワールド」の建設も準備されている。科学の進歩と人間の幸せがかならずしも両立しない現代だからこそ、アトムの掲げた理想主義とヒューマニズムがあらためて人気を呼んでいるとも言えそうだ。

日本玩具資料館蔵

▲玩具のアトムは、アニメが始まった直後の昭和39年頃集中的に登場。動力はゼンマイ、フリクション、電池の3種。

▲昭和26年、22歳の手塚。この年大阪大学医学部を卒業した。

フォト＋日録で再現する366日

▲**羽田空港返還式(7月1日)** 講和条約発効で米軍から返還され、東京国際空港としてスタート。日本航空ほか欧米10社が発着する国際空港となったが、一部は引き続き米空軍が使用した。

◀**エジプトでクーデター成功(7月23日)** ナギブ将軍率いる自由将校団がカイロを制圧、国王ファルーク1世に退位と国外退去を要求した。写真前列中央は後に大統領となるナセル(39)。

▲**帆船「日本丸」修復される(7月18日)** 昭和5年に練習船として進水、戦時下には帆をはずして輸送船として使われていた。戦後修復され、この日東京・羽田沖を関係者500人が見守る中を試走し、再び東京商船大などの実習船となった。

▶**2000年前の蓮の実が開花(7月18日)** 蓮の研究家・大賀一郎博士(写真)が、千葉市検見川町の弥生時代の遺跡から発見、かならず開花すると予言していた。後に「大賀蓮」として各地に分根された。

▼**大山康晴3度目で名人(7月15日)** 大阪府高石町の第11期将棋名人戦第5局で、木村義雄名人(右)に快勝。29歳で名人となり、優勝124回の大記録を樹立する大山時代のスタートとなった。

▶**日本、戦後初参加のヘルシンキ五輪(7月19日)** 期待の古橋は敗れたが、レスリングの石井が金メダル。「人間機関車」チェコのザトペック(右)は、マラソンなど3種目に優勝、世界を魅了した。

昭和27年7月

1(火)●全国で住民登録実施。調査員三六万人動員。
●羽田空港が米軍より返還、東京国際空港に。
●森永製菓、ビタミン入りホモ牛乳を発売。

2(水)●横浜沖で特殊潜航艇「海竜」を引揚げ。

3(木)●米映画「カサブランカ」封切。

4(金)●韓国、大統領直接選挙制など憲法改正(8月7日李承晩が再選される)。

5(土)●戦時供出のダイヤ三万カラットの衆院調査班を増員。

6(日)●京浜急行、品川―逗子海岸に直通特急を運行。

7(月)●名古屋で帆足計らのソ中帰国報告集会でデモ隊と警官隊衝突。一二一人検挙(大須事件)。

8(火)●世界初のジェット旅客機「コメット号」羽田着。

9(水)●全国地域婦人団体連絡協議会(地婦連)結成。

10(木)●戦後初の北洋捕鯨船「ばいかる丸」出港。

11(金)●関西地方に豪雨。一七〇人死亡・行方不明。

12(土)●最高検、火炎瓶に爆発物取締規則を適用。

13(日)●警視庁、新防弾チョッキを公安課刑事に支給。

14(月)●警察予備隊、旧日本軍大佐ら二三六人を採用。

15(火)●大山康晴、木村義雄を破り将棋名人位を獲得。

16(水)●平和台の西鉄―毎日戦で試合を延ばす毎日に観客が怒り選手と乱闘(毎日の監督辞任へ)。

17(木)●ヨット「わたりどり号」が四七日で太平洋横断。
●西独議会、元ナチ党員の市民権復活法案可決。

18(金)●千葉市検見川町の弥生時代遺跡から発掘された、二〇〇〇年前の蓮の実が開花。
●東京女子医大の榊原仟教授、日本初の心臓の僧帽弁手術に成功。

19(土)●ヘルシンキ五輪開幕。一六年ぶりの日本、初のソ連など六九ヵ国参加。

20(日)●摩周湖の透明度が四〇メートル減の二五~二九メートルに。

21(月)●破壊活動防止法公布。公安調査庁が発足。

22(火)●関西経営者協議会、騒乱学生には就職を保証しないと発表(28日、日経連も)。

23(水)●エジプトでナセルらのクーデター成功。

24(木)●一九五八年アジア大会を日本で開催と決定。

25(金)●閣議、日本ユネスコ国内委員五〇人を承認。

26(土)●在日米軍に提供の施設区域協定調印(陸上演習場三二、飛行場一一など)。

27(日)●前日撤退期限終了の占領軍が「駐留軍」に。

28(月)●極東貿易会議、米で開催。日米英仏加が参加。

29(火)●電波監理委、アマ無線三〇局に予備免許。

30(水)●ヘルシンキ五輪で古橋広之進敗れる(古橋、「私を責めないでください」の手記を新聞に)。

31(木)●電波監理委、日本テレビに予備免許を許可。

証言・あの日この日
深代惇郎(23)

10月15日(水) 〈毎日の口頭試験、体格検査あり。昨日の朝日新聞より僕自身の立場をやや右に調節する。可笑しな話だが、その可笑しな事をしないと馬鹿をみる。可笑しな奴か馬鹿な奴か、何れかを選ばなくてはならない。/毎日の調書の中に短所を記入する項がある。妥協性と書いておいたが、その意味に気附いた試験官は恐らく居るまい。口頭試験の時、結局妥協せざるを得ない事を知って居たからだ〉(深代惇郎『青春日記』)

東大法学部四年の深代は朝日、毎日両新聞社の試験に合格する。後に「天声人語」の名記者として知られる彼は既にして冷静で客観的な視線を持っている。〈……僕が、就職問題に関してにがにがしい妥協をしなければならなかったことは、今の社会の赤恐怖症の如何に深刻なものかを、充分推測させるに足りる〉。(坪内祐三)

▲**原爆慰霊碑、除幕(8月6日)** 広島の平和記念公園に、丹下健三の設計で埴輪をモチーフに建てられた。午前8時、被爆孤児5人が数千人の被爆者や市民の見守る中、除幕した。

▼**高川格(36)、新本因坊に(8月21日)** 神奈川県鶴巻温泉での第7期本因坊戦第5局で、橋本宇太郎本因坊を破り、タイトルを獲得。9月1日本因坊に就位。以後、9連覇の新記録を達成した。

▶**モーターバイク祭(8月2日)** 本田カブA型(写真)、東発パピー、富士精密バンビなど150台が、日本橋、新宿、渋谷など都内各所をパレード。庶民の足としての便利さをPRした。

▲**電電公社発足(8月1日)** 行政改革で廃止された、電気通信省の機構や業務を引き継いで発足。この日「今後はお客様本位の仕事をしたい」と新聞広告を出した。明治3年以来、82年間の官営事業に終止符が打たれた。

◀**オーストラリアから珍獣(8月19日)** 上野動物園70周年記念の交換動物として、赤カンガルー、笑いカワセミなど豪の固有動物がメルボルン動物園から到着。写真のウォンバットは、夜行性の珍獣で、体長1メートルほど。

昭和27年8月

1(金)●法務省・郵政省・自治庁・保安庁など設置。
●日本電信電話公社、発足。

2(土)●東京でモーターバイク祭。一五〇台が行進。

3(日)●鶴見和子ら、第一回作文教育全国協議会で主婦・勤労女性に生活を綴る運動を提唱。

4(月)●吉田首相、保安庁で新国軍の土台たれと訓示。

5(火)●英外相、自動車強盗で有罪(神戸地裁)の英水兵二人の引き渡しを要求。外務省は拒否。

6(水)●被爆直後の広島の被害写真を初めて掲載した「アサヒグラフ」五二万部が即日完売。

7(木)●政府、全戦犯の特赦を関係国に要請と決定。

8(金)●義務教育費国庫負担法公布。
●ラジオ受信契約数が一〇〇〇万件を突破。

9(土)●東証、開所以来の高値二六四円七六銭を記録。朝鮮休戦会談不成立で「特需」続行と新聞解説。

10(日)●広島に「原爆被害者の会」発足。

11(月)●福岡県芦屋の米軍、五〇〇人解雇を突然予告。

12(火)●北洋のサケ・マス漁船団の第一船が函館入港。

13(水)●兵器生産協力会(後の日本兵器工業会)創立。

14(木)●藤原歌劇団、初の米国公演に出発。

15(金)●地方自治法改正公布(東京都特別区の区長任命制を廃止し区議会が選出)。

16(土)●生保業界は死亡率低下で大幅黒字、と新聞に。

17(日)●周恩来首相、ソ連訪問(9月15日共同声明)。

18(月)●国鉄、高さで国内最高になる一二階建ての東京駅八重洲口駅舎建設計画を発表。

19(火)●ブラジル移植民審議会、日本から九〇〇〇世帯・四万五〇〇〇人の移住計画を承認。

20(水)●夏の甲子園で芦屋高校が優勝。

21(木)●警察予備隊第一期生の除隊式挙行。

22(金)●A級戦犯の元首相・平沼騏一郎、服役中に死去。

23(土)●旧陸軍将校が同窓組織「偕行会」を結成。

24(日)●A・コルトーのピアノ独奏会の前売り券五二〇〇枚が三〇分で売り切れ(9月25日来日)。

25(月)●出光興産、徳山旧海軍燃料廠の払い下げ申請を中国財務局に提出。

26(火)●東京都衛生局、日本脳炎患者一七七人、死亡四四人と発表(9月8日には五八九人)。

27(水)●警察予備隊看護婦採用試験に一三倍の応募。

28(木)●吉田首相、党内抗争から抜き打ち衆院解散。

29(金)●宮古島から日本留学の青年、同島の遺骨返還を望み一九九人の戦没者名簿を持参。

30(土)●吉田満『戦艦大和ノ最期』刊行。

31(日)●親米反共の琉球民主党結成。立法院第一党に。

▲英のオックスフォード大ラガー来日（9月8日）全日本、全関西などと対戦。たくみなパスと駿足バックスの活躍で、7戦全勝と格の違いを見せた。写真は秩父宮と交歓する同チーム。

読売新聞社

▶日本の航空工業再出発（9月28日）旧立川飛行機の技術者が、同社に残されていた神風150馬力エンジンを使い戦後初の国産機、立飛式R-52型「タチヒ号」を完成させた。後に新聞社に売却された。

野沢正提供

▲カメラマンは大嫌いの吉田首相（9月16日）京都での演説会で、しつこい写真撮影に、首相はコップの水をあびせかけ、「人間の尊厳を知らないか」と大見得を切って会場の拍手をあびた。

▶日本初の下着ショー開く（9月）和江商事（現・ワコール）が大阪・阪急デパートで開催。モデルと振り付けは素人だったが、定員300人の会場は満員の盛況。男子は入場できなかった。

ワコール提供

▶ロッキー・マルシアーノ(29)王座に（9月23日）5万人を集めたフィラデルフィアの世界ヘビー級タイトルマッチで、チャンピオンのウォルコット（左）に13RKO勝ち。ロッキーは49戦全勝で引退した。

◀「明神礁」誕生（9月17日）伊豆七島・青ケ島南方60キロのベヨネーズ岩礁が噴火、新島となり、発見した漁船名にちなみ明神礁と命名。23日に起きた2度目の噴火では、調査船「第五海洋丸」が遭難した。

朝日新聞社

CORBIS・BETTMANN

昭和27年9月

1（月）●児童福祉法改正施行にともない、築地署が銀座の花売り娘五〇人を一斉補導。
●高川格、第七期本因坊に（以後一五期まで）。
●東京銀行、ロンドン支店を開設。
2（火）●江戸川放水路で徳川末期の「千鳥猟」公開。
3（水）●呉市で魚雷解体中爆発。七人死亡、五人重傷。
4（木）●米映画「風と共に去りぬ」封切。
5（金）●国警機動隊配備の特殊警備車第一号が完成。
6（土）●警視庁、児童福祉法違反で吉原の二業者逮捕。
7（日）●麻薬検挙者の七〇㌫が初犯で中毒者と新聞に。
8（月）●国連協会世界連盟、日本協会を正会員に昇格。
9（火）●北海道・中部・関西・東京各電力会社、前日来の降雨で電力事情好転し電力制限を中止。
10（水）●銀座のデパート松屋、PX解除され返還。
11（木）●日本、IMFと世界銀行の常任理事国に。
12（金）●溝口健二監督・田中絹代主演「西鶴一代女」がベネチア国際映画祭で国際賞受賞。
13（土）●木村篤太郎法相、一〇月の総選挙違反者には「立太子恩赦」を適用しないと言明。
14（日）●東京通信工業（現・ソニー）、米製テープレコーダーは特許侵害と東京地裁に仮処分申請。
15（月）●全国紙三社などが日本航空協会の発起人会。
16（火）●電源開発株式会社、設立。
17（水）●八丈島南方で海底火山噴火。「明神礁」と命名。
18（木）●チャップリン、渡英（19日米司法長官、反米的言動を理由に、再入国保証せずと発表）。
●ソ連、安保理で米提案の日本の国連加盟拒否。
19（金）●都内小中高校長対象に初のテレビ教育研究会。
20（土）●日本瓦斯化学、新潟の天然ガスからメタノール精製を開始。
21（日）●大相撲、四本柱廃止し吊り屋根土俵で開幕。
●石川県内灘村緊急拡大村議会、米軍の試射場接収反対を決議（内灘闘争始まる）。
22（月）●通産省、粗悪品の輸出防止要綱を策定。
23（火）●明神礁観測船「第五海洋丸」遭難。三一人死亡。
●ロッキー・マルシアーノが世界ヘビー級王者。
24（水）●電産労組、電源・停電の波状ストに突入。
25（木）●都営結婚相談所に一日一五〇人来訪し大繁盛、女性は経済的豊かさを望む、と新聞に。
26（金）●日米・日英で戦前債務の全額返済協定調印。
27（土）●国連軍、密航警戒し朝鮮周辺に防衛海域設置。
28（日）●旧立川飛行機技術者が戦後初の国産機を完成。
29（月）●自由党、反吉田派の石橋湛山・河野一郎を除名。
30（火）●都選管が皇族に選挙権なしと解釈、と新聞に。

毎日新聞社

◀第4皇女順宮厚子（21）が結婚（10月10日）東京・高輪の光輪閣で、旧池田侯爵家の長男で岡山の牧場主・隆政氏（25）と挙式。写真は東京会館の「アットホーム」な披露宴。右端が新婚のお二人。

▼再軍備本格スタート、保安隊誕生（10月15日）警察予備隊が改編、保安隊となった。この日東京・神宮競技場で創立紀念式典を挙行、米軍式装備の隊員による行進や、特車（戦車）を披露した。

毎日新聞社

日本PTA全国協議会提供

▲PTA全国協結成（10月14日）東京で全国協議会の結成記念式典（写真）を開催、「義務教育の無償・学校給食制定の促進」など活動方針を掲げた。

▶関脇栃錦（27）、初優勝（10月5日）国技館の秋場所千秋楽で三根山を破り、14勝1敗で優勝。大関を確実にした。写真は父親（右）と喜ぶ栃錦。

◀10年ぶり、高村光太郎帰京（10月14日）詩人の草野心平（右）らの依頼で「乙女の像」制作のためこの日帰京。妻・智恵子の面影を残すこの像は、翌年完成し十和田湖畔に設置された。

毎日新聞社

毎日新聞社

昭和27年10月

1（水）●第二五回総選挙（自由党二四〇、共産党全滅）。
2（木）●北京で三七ヵ国参加しアジア太平洋地域平和会議。潜行中の中村翫右衛門らも出席。
3（金）●英、豪モンテベロ島で初の原爆実験。
4（土）●経済四団体、自由党両派に政局安定を要望。
5（日）●関脇栃錦、一四勝一敗で初優勝。
6（月）●通産省、従来の取締り方針を改め、兵器産業を保護・育成する基本方針を決定。
7（火）●外務省、日米間で査証料を相互免除と発表。
8（水）●国連軍、朝鮮休戦会談の無期限休会を通告。
9（木）●黒澤明監督・志村喬主演「生きる」封切。
10（金）●第四皇女順宮厚子、元侯爵家・池田隆政と結婚。
11（土）●文部省、学校給食も教育の一環とする学習指導要領を全国の小学校に配布。
12（日）●東大寺で「大仏開眼千二百年記念法要」挙行。
13（月）●韓国済州島沖で日本漁船四〇隻に機銃掃射。
14（火）●日本父母と先生全国協議会（PTA）結成。
15（水）●保安隊、創設。隊員四〇〇〇人が都内行進。
●モンテンルパ収容の戦犯二人、再審査で無罪。
16（木）●天皇・皇后、戦後初めて靖国神社に参拝。
17（金）●炭労、大手一七社が賃上げを要求し無期限ストに突入（12月16日妥結）。
18（土）●巨人、日本シリーズで南海破り二連覇、三勝の別所がMVP、与那嶺が打撃賞。
19（日）●警視庁、元運輸相・前田米蔵を選挙違反で召喚。
20（月）●奄美の与論村村長、同島の日本復帰嘆願書をたずさえ横浜へ到着。
21（火）●厚生省、結核新薬チビオンの発売を許可。
22（水）●東京地裁、昭電疑獄の芦田元首相らに無罪。
23（木）●鳩山一郎、吉田茂との会談で吉田首班を承認。
●愛知二区から「公明選挙」掲げ初当選の中峠国夫、自転車で三泊四日かけ東京に入る。
24（金）●ポツダム政令一七件がこの日で失効。
25（土）●日本航空、東京—大阪間などの自主運航開始。
26（日）●韓国、李ライン侵犯の日本漁船員三六人釈放。
27（月）●藤原歌劇団・二期会など共同でモーツァルトの歌劇「フィガロの結婚」を初演。
28（火）●文化放送、「娯楽番組取扱い細則」決定。「下品な流行歌」は締め出し。
●日本テレビ放送網、設立。社長・正力松太郎。
29（水）●ビルマ米に黄変米発見、配給禁止を通達。
●中国、日本船の上海、大沽入港を許可。
30（木）●第四次吉田内閣。鳩山派排除し自由党単独。
31（金）●東電、翌日から週一回の休電日実施を発表。

11~12月

◀アイゼンハワー、米大統領に（11月4日）39州で442人の選挙人を獲得、スティーブンソンの89人に大差をつけた。連合軍総司令官として第2次大戦を勝利に導いた指導力と、率直な人柄が支持された。

WWP

▼新丸ビルが落成（11月18日）東京駅前に昭和12年着工、戦争で工事が中断したが26年に再開、地下1階地上8階が完成。1階に銀行と証券会社、2~8階に大手企業が入居するオフィスビルとなった。

三菱地所提供

朝日新聞社

▲蛍光灯時代来る（11月30日）1942年に米国で発明された蛍光体が、蛍光灯として実用化され、寿命の長さと消費電力の安さが受けて、日本でも大量生産が始まった。写真は東急目蒲線の電車内に取り付けられた蛍光灯。

▶池田勇人通産相、また失言（11月27日）「貧乏人は麦を食え」と放言した池田（中央）が、衆院本会議で、「中小業者の5人や10人倒産しても」と発言、29日引責辞任した。

▼ガスが時間供給（11月24日）炭労ストで貯炭量が減った東京瓦斯は、午前5時~午後1時、午後4時半~8時の時間供給を実施。炭労ストが解決する年末まで続いた。

毎日新聞社

▶講和条約後の初の文化勲章（11月3日）7人の授賞式が皇居で行われた。写真前列左から歴史学・辻善之助、医学・熊谷岱蔵、洋画・梅原龍三郎、後列左から洋画・安井曾太郎、物理学・朝永振一郎、文学・永井荷風。法学・佐々木惣一は欠席。

毎日新聞社

昭和27年11月

1（土）●日本水産、日本初の魚肉ソーセージを発売。
●米、エニウェトク環礁で水爆実験を行う。
2（日）●神宮での早慶戦に観客が殺到、十数人重軽傷。
3（月）●広島で世界連邦アジア会議開催。
4（火）●米大統領に共和党のアイゼンハワー当選。
●労働省主催「伸びゆく婦人の職業展」開催。
5（水）●「フジヤマの飛魚」古橋広之進、引退を表明。
6（木）●国際民間航空機関への日本の加盟を承認。
7（金）●ユーゴ共産党、ソ連は侵略的帝国主義と決議。
8（土）●外務省、神戸移民斡旋所にアマゾン計画移民の実施を通知（12月28日第一陣五四人出発）。
9（日）●「ブラジル移民に失敗」と戦後入植した一七六人がオランダ船で帰国。
10（月）●皇太子明仁親王の立太子礼が行われる。
11（火）●海上保安庁にレーダーによる機雷探知所完成。
12（水）●米からフリゲート艦など借り入れる協定調印。
13（木）●愛知県知事、伊良湖岬試射場復活に反対陳情。
14（金）●ココム、日本の加入を決定。
●鉄鋼六社、屑鉄買いあさり抑制申し合わせ。
15（土）●『現代世界文学全集』（新潮社）、『昭和文学全集』（角川書店）刊行開始。
16（日）●電産のスト中止指令受け東電が停電取りやめ。
17（月）●日弁連、最高裁の訴訟遅延問題で調査対策委員会を結成。未処理件数七五〇〇。
18（火）●東京・丸の内に新丸ビル完成し落成式。
19（水）●厚生省、結核死激減し脳出血死が激増と発表。
●国鉄、炭労ストで貯炭量減り、月末から全国一斉に列車一割削減と決定。
20（木）●経団連再編完了。日本商工会議所が分離。
21（金）●厚生省、六〇歳以上の元軍人軍属と未亡人八万人に特別給与金二〇〇〇円を支給と決定。
22（土）●文化財保護委、国宝一三八件を決定。
23（日）●東京・雙葉高、モデル当選の女生徒に退学要求。
24（月）●炭労ストで貯炭量減り東京瓦斯が時間供給に。
25（火）●新設の婦人保安官六二人が衛生学校に入隊。
26（水）●日仏定期航路開通。パリ発一番機が羽田着。
●主婦連、電産スト中の電気料金不払いを決議。
27（木）●池田通産相、衆院で「中小企業の倒産・自殺もやむをえない」と発言（29日引責辞任）。
28（金）●閣議、炭労・電産スト中止勧告を決定。
29（土）●法務省、英・豪の要求で二三日に起きた自動車強盗容疑の二兵士を両国へ引き渡し。
●大阪拘置所から死刑囚が鉄格子破り脱走。
30（日）●横綱千代ノ山、熊本で横綱就任報告祭。

毎日新聞社

▲作家・鹿地亘、拉致事件（12月10日）前年、米諜報機関に拉致されたが12月7日突然帰宅、スパイ事件へ発展した。写真左はこの日国会で喚問される鹿地。

▲ミシンの大量生産（12月）この年生産された132万台のうち7割が輸出され、一躍花形産業に。機構が機関銃と似ているため、銃器メーカーも戦後すぐに参入することができた。

▶生きた化石シーラカンス発見（12月20日）アフリカに近いコモロ諸島で見つかった。4億年前に出現、数千年前に絶滅した原始的な魚で、1938年南アフリカで生存が確認され、賞金つきで捜索が続いていた。

Popperfoto／ユニフォト・プレス

▼戦後初のサイクロトロン（12月29日）東京・文京区の科学研究所で試運転に成功。元理研の仁科芳雄の遺志を受け継ぎ、資金難を克服して再建、試運転を実現した。

朝日新聞社

▲渡辺はま子、モンテンルパの戦犯慰問（12月24日）これを機に釈放運動が活発化。翌年7月のフィリピン独立記念日に百余人が特赦された。写真は獄舎で歌う渡辺。

▶日本初のボウリング場（12月20日）米軍から譲り受けた格納庫を利用し、青山に東京ボウリングセンターがオープンした。20レーンで1ゲーム150円。

共同通信社

昭和27年12月

1（月）●日本長期信用銀行設立。
2（火）●閣議、石川県内灘を米軍射撃演習場と決定。
3（水）●講和後の外国兵犯罪は一〇〇八件と国警。
4（木）●日産、英オースチン社と乗用車製造技術提携。
5（金）●農業技術研究所にアイソトープ実験室が完成。
●郵政省、テレビ周波数割当を京浜三局・名古屋二局・京阪神二局と決定。
6（土）●警視庁、深夜の国電で二千万余円を稼いでいた暴力スリ団五五人を逮捕。
7（日）●米諜報機関（キャノン機関）に拉致された作家・鹿地亘が監禁解かれ一年ぶりに突然帰宅。
8（月）●仏保護領モロッコのカサブランカで独立を求めるゼネストが暴動化、五二人が死亡。
9（火）●東電、渇水と二〇時間ストで週二日休電へ。
10（水）●国際柔道連盟、日本の加盟を承認。会長に講道館館長・嘉納履正を選出。
●電産労組、全国で一二〇時間連続ストに突入。
●壺井栄『二十四の瞳』刊行。
11（木）●国鉄、炭労ストにより第三次列車削減を実施。
12（金）●ルバング島の残存旧日本兵、住民一人を射殺。
13（土）●ニューヨークで原爆想定した大規模防空演習。
14（日）●武蔵野市で米軍宿舎設置反対住民大会を開催。
15（月）●野間宏原作・山本薩夫監督「真空地帯」封切。
●レコード録音での「声の郵便」サービス開始。
16（火）●靭勉電電公社副総裁、工事費横領容疑で逮捕。
17（水）●京阪電鉄、戦後初の電熱暖房車両を運行。
18（木）●電産、スト中止を指令。中労委斡旋案を受諾。
19（金）●名古屋市で飛行機のまいた宣伝用ビラの束が小学生にあたり、四週間の重傷。
20（土）●NHK、初のステレオ放送（ラジオ二台で）。
●東京・青山に日本初のボウリング場開設。
21（日）●国連総会、日本国連加盟の米提出決議案可決。
22（月）●名古屋の東亜合成工場で爆発。二五二人死傷。
23（火）●厚生省、全国の混血児は五〇一三人と発表。沢田美喜はもっと多いはずで不正確、と異議。
24（水）●渡辺はま子、モンテンルパの戦犯を慰問。
25（木）●『アンネの日記』（皆藤幸蔵訳）刊行。
26（金）●NHK東京テレビ放送局に開設の予備免許。
27（土）●全日本空輸（全日空）、設立。
●婦人少年問題審、売春禁止法制定などを答申。
28（日）●賞与最多は砂糖業で自動車の三倍、と新聞に。
29（月）●科学研究所、サイクロトロンの試運転に成功。
30（火）●二七年の綿紡輸出は前年比四一％減と新聞に。
31（水）●ソ連、長春鉄道を中国に返還。

俄楽多市

流行語
映画のヒットから始まった

「ゴールデン・ウィーク」。昭和二六年五月、松竹と大映が獅子文六原作の「自由学校」を競作し、五月の休日の多い週間に公開したところ、正月やお盆興行をしのぐ大ヒットとなった。このため二七年から、映画関係者の間で四月末から五月初めの休日の多い週間がこう呼ばれるようになり、その後、一般用語として定着した。

「キゼツ」。ビックリしたことをさす言葉で、女学生の間で「わあ、キゼツ」という形ではやった。気絶するほどの驚きという意味で、その一歩手前は「わあ、キョウイ（驚異）」と言った。

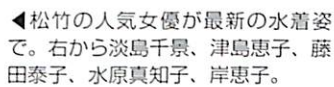
「ミス・ビキニ」。こちらは男子学生用語で、今にも爆発しそうなニキビを持つ女学生のこと。ビキニ環礁の水爆実験からの連想で、ニキビ顔で恋愛に夢中という女学生をさすこともあった。

「スポマン」。スポーツ・サラリーマンの略で、スポーツで就職したサラリーマンのこと。運動部出身の社員は年々ふえたが、この年は単位がとれずに落第するケースが続出し脚光をあびた。

◀松竹の人気女優が最新の水着姿で。右から淡島千景、津島恵子、藤田泰子、水原真知子、岸恵子。

共同通信社

社会
岡山の高校の中に結婚相談所を開設

（岡山発）岡山市の操山高校が同校内に同窓会結婚相談所を開設。すでに数十組のおめでた組を送り出している。同相談所は二六年春に開設、結婚の条件などを記した相談カード六〇〇枚のほか結婚用の学籍簿もそろえて相談に応じている。同窓会からの申し込みが基本だが一般からの相談も可。申し込み料は一件五〇円で「〇年卒業のA子さんは美人ですか」といった問い合わせを含め、一日一件の照会があり、斡旋したカップルは約一〇〇組に達する。

（「山陽新聞」一月一四日）

ブーム
折込広告が新聞の〝必需品〟になったわけ

折込広告は今や新聞の必需品。折込広告によって世の中の動きを知るという人も多い。折込広告と新聞が切っても切れない仲になったきっかけは、この年五月の「財閥商号使用禁止の政令廃止」という政府決定だった。

それまではGHQ（連合国総司令部）の財閥解体政策によって銀行なども旧財閥名を使うことができず、たとえば三菱銀行は千代田銀行、住友銀行は大阪銀行と称していた。それがこの決定によって、もとの名称が使えるようになったのだ。銀行は市民の生活と密着しているため、改名を早く知らせるには折込広告が一番手っとり早い。このことが折込広告と新聞を結び付ける役をはたしたのだ。

（東京都折込広告組合編「折込広告のあゆみ」）

▲福井英一が、「冒険王」3月号から「イガグリくん」の連載を開始した。

CM100年

新聞CM「第一生命は日比谷の本館（もとのGHQ）にもどりました」（第一生命）

▶GHQの廃止にともない、本部がおかれていた第一生命ビルが返還された。

学者
お茶を買う金がない！金田一博士の貧乏物語

金田一京助博士の古希祝賀会が五月五日、参議院議員会館で開かれ、挨拶に立った金田一博士が約五〇年にわたる学者の貧乏暮らしについてこう述べた。

「貧乏もドン底になった時、『もう倹約するものがない』と家内が言うので、とうとうお茶を飲まぬことにしました。茶を買わず、燃料も使わず水ばかり……」

かたわらで静江夫人（六〇）が両手で顔をおおってうなずいていた。

（「朝日新聞」五月六日）

はやり歌

リンゴ追分

作詞 小沢不二夫
作曲 米山正夫

リンゴの花びらが 風に散ったよな
月夜に 月夜に そっと えええ……
津軽娘は ないたとさ
つらい別れを ないたとさ
リンゴの花びらが 風に散ったよな
ああ……

〝お岩木山のてっぺんを綿みてえな白い雲がポッカリポッカリ流れてゆき、桃の花が咲き桜の花が咲きそっから早咲きのリンゴの花ッコが咲く頃がおら達の一番楽しい季節だなャー。だどもじっぱり無情の雨コさ降って白い花びらを散らす頃、おらあ、あの頃東京さで死んだお母ちゃんの事思い出すて…おらあ…おらあ…〟

津軽娘は ないたとさ
つらい別れを ないたとさ
リンゴの花びらが 風に散ったよな
ああ……

マルベル堂提供

▲歌は美空ひばり、連続ラジオドラマ「リンゴ園の少女」のために作られヒット。

テネシー・ワルツ

日本語詞 音羽たかし
作詞・作曲 レッド・スチュワート&ピー・ウィー・キング

I was waltzing with my darlin'
to the Tennessee Waltz.
When an old friend I happened to see;
Introduced her to my loved one,
And while they were waltzing,
My friend stole my sweetheart from me.

去りにし夢 あのテネシー・ワルツ
懐かし 愛の歌
面影偲んで 今宵も歌う
うるわしテネシー・ワルツ

I remember the night and
the Tennessee Waltz.
Now I know just how much I have lost;
Yes, I lost my little darlin'
the night they were playing
The beautiful Tennessee Waltz.

前沢健哉提供

◀昭和二五年のパティ・ページの歌を、江利チエミが訳詞で歌って大ヒットさせた。

三面記事
「軍艦マーチ」で売上増

パチンコ店では雰囲気を盛り上げるために「軍艦マーチ」のレコードが欠かせないものになっているが、あれを最初に始めたのは実は私（福富太郎）である。二七年、私は渋谷の「リビア」というキャバレーのマネジャーをしていたが、店は当時〝泣く子も黙る〟と恐れられた宇田川町の奥にあったので、通りでキャッチでもしないと客が来ない。しかし女たちは「今日は雨だからうっとうしい」などと言ってなかなかキャッチに行かない。そこで考えたのが「軍艦マーチ」だった。女たちが外に出たくなさそうにしている時、これをかけると元気が出て腰を上げるのだ。女は戦前生まれなので、この曲を聞くと自然に体が動くのである。渋谷のパチンコ店が同じように「軍艦マーチ」を流し始めたのは、そのあとだった。

（福富太郎『昭和キャバレー秘史』）

共同通信社

▲硬貨式公衆電話機が4月に登場。1通話の料金は5円だった。

珍商売
ウオッシュ・ボーイが東京で外人相手に繁盛

東京の皇居前広場や中央（帝国）ホテル周辺など、外人の自動車の駐車するあたりで、最近、ウオッシュ・ボーイが急増している。名前のとおり車の洗い屋で「ハロー、ウオッシュ オア ポリッシュ？」などと直談判。洗いなら一五〇円、車体をワックスで磨く〝磨き〟なら五〇〇円が相場。月決めで契約しているケースもあり、その場合、月に磨き三回、洗い毎日で二〇〇〇円。一人で月決め二〇台持っているものもいる。バケツとタワシとワックスさえあれば誰でもできるので、お得意さえつかめばいい儲けになるが、ちょっとでも傷をつけるとすぐに五〇〇円、一〇〇〇円を取られるのがつらいところという。

（「週刊朝日」四月六日号）

共同通信社

◀ヌード劇場の前を、鬼の面や風車などを売る屋台車が通りかかる。大阪の道頓堀で二月八日撮影。

データ
トップは美空ひばり スターのラジオ出演料

ラジオ出演料で群を抜いているのは美空ひばりで、出演時間三〇分で七万円から八万円。歌手のAクラスでも四、五万円だからおそるべき少女だ。ちなみにAクラスは田端義夫、小畑実、灰田勝彦、近江俊郎、淡谷のり子、二葉あき子などで、やや下がって三万円台のBクラスが藤山一郎、霧島昇、越路吹雪など。東海林太郎は一万五〇〇〇円から二万円のCクラス。江利チエミは一万円のDクラスである。

ドラマ出演では五、六万円のエノケンがトップで、ロッパが四万円台で続き、森繁久弥は二万円台。新劇畑の場合、杉村春子、宇野重吉、滝沢修らが一万五〇〇〇円台で、山本安英、東山千栄子などが一万から一万二〇〇〇円台で続く。

（「新潟日報」四月二五日）

▲2月13日朝、岡山市の中心街に巨大な「カバ」が出現。カバヤキャラメル食品会社が、宣伝用にトヨタ自動車に発注したもの。

この年の初もの
冷凍食品売り場が西武デパートに

●**麻酔の効果測定器** 〝ロケット博士〟として知られる東大・糸川英夫教授（三九）が考案。

●**ジェット・コースター** 兵庫県宝塚新温泉に設置。当時は「ウェーブ・コースター」と呼ばれた。

●**録音屋** 流しの演歌師と組んで銀座のバーにテープレコーダーを抱えて現れ、客の歌を吹きこんで聞かせる商売。一回一〇〇円。

●**カラーコンドーム** 岡本理研が発売し、爆発的にヒット。

世界の「風と共に去りぬ」大ヒットと占領政策の影

傑作続々公開で〝洋画〟ブーム!

敗戦後、アメリカ映画を中心とする外国映画は日本人を魅了した。中でも昭和二七年九月に公開された「風と共に去りぬ」は、東京・有楽座だけでも、三ヵ月で観客動員数二八万五〇〇〇人という大ヒット。また、「第三の男」「天井桟敷の人々」など映画史上に残る傑作ヨーロッパ映画も相次いで公開され、この年、本格的な〝洋画の時代〟が幕を開けた。

大作「風と共に去りぬ」完成後一三年目に公開

「明日に希望を託して……」

真っ赤な夕陽に浮かび上がるスカーレット・オハラ（ヴィヴィアン・リー）のシルエット。スクリーンの幕が下りると、東京・有楽座を埋めた満場の観客から溜息がもれた。観客の一人だった、日本映画海外普及協会顧問の黒田豊治氏（現・七七歳）は、こう振り返る。

「重厚なストーリーと四時間近く観客を飽きさせない演出力、そしてカラーの素晴らしさ。とにかく圧倒されました」

昭和二七年九月四日から東京・有楽座と大阪・松竹座で独占上映されたアメリカ映画「風と共に去りぬ」は、二五年に公開されて約三二万人を動員したイギリス映画「赤い靴」に次ぐ大ヒットとなった。原作は日本でもベストセラーになっていたマーガレット・ミッチェルの小説。昭和一四年に完成しアカデミー賞八部門を受賞した傑作だったが、戦前は検閲によって日本では上映されず、完成後一三年目にしてようやく公開されたのだった。

六〇〇万ドルという莫大な製作費をかけたテクニカラー総天然色のこの作品は、戦時中にシンガポールで没収されたフィルムを見た徳川夢声に「どうも今度の戦争は、うまくいかんかもしれんぞ（中略）『風と共に去りぬ』を製作し得る国と、近代兵器の戦争をしても、到底ダメだ」（『夢声戦争日記』）と言わしめた大作。「清らかな恋愛と荒っぽい恋愛の二つをみごとに描いた、誰にでもわかるメロドラマだった」（映画評論家・淀川長治氏）こともあり、多くの日本人を魅了した。

▲「風と共に去りぬ」は、大農場主の娘スカーレット・オハラの奔放な恋と波乱万丈の半生を、南北戦争下のジョージア州を舞台に描いたハリウッドならではのスペクタクル。

当時、映画館の入場料は邦画一三〇円、洋画一七〇円が一般的だったが、有楽座では三〇〇円、五〇〇円、特別席六〇〇円という破格の入場料にもかかわらず一日三回の興行とも連日の超満員。この年一一月二六日までの続映で、総収入五六四一万円を記録した。

一方で、昭和二七年はヨーロッパ映画が健闘した年でもあった。その原動力となったのが、戦時中は日満華合弁会社・中華電影公司の要職にあったため公職追放されていた川喜多長政が復帰し、前年から配給業務を再開した東和映画だった。「東洋文化と西洋文化の調和、和合」を理想に、戦前から芸術的なヨーロッパ映画の輸入を行ってきた川喜多と妻・かしこは、その豊富な海外人脈を活かしてイギリス、フランスの名画の数々を日本に紹介した。この年のキネマ旬報のベストテンでは、第一位を「チャップリンの殺人狂時

▶第二次大戦で廃墟と化したウィーンに、旧友を訪ねてきた作家は、友人の突然の死を告げられ茫然とする。「第三の男」は、アントン・カラスがチターで奏でるテーマ曲でも有名。

川喜多記念映画財団提供

▼「明日では遅すぎる」（伊）に長蛇の列。整理のため警官出動。

朝日新聞社

◀作家レイモン・ラディゲが、十代で書いた不倫小説を映画化した「肉体の悪魔」。

▲戦争による大量殺人を批判した社会風刺劇「チャップリンの殺人狂時代」。

◀「天井桟敷の人々」はドイツ占領下で製作。恋物語の背後に権力への抵抗の姿勢が。

◀北イタリアの水田地帯で働く出稼ぎ女性が主役の「にがい米」。

代」（米）に譲ったものの、二位は「第三の男」（英）、三位が「天井桟敷の人々」（仏）といずれも東和配給のヨーロッパ映画。ほかにも「肉体の悪魔」「巴里の空の下セーヌは流れぬ」（いずれも仏）など、ベストテンに四作品を送りこんだ。

占領政策と不可分だった戦後の外国映画輸入状況

しかし、昭和二七年に公開された外国映画二〇八本のうち、一五二本はアメリカ映画だった。それは映画がアメリカ軍の占領政策と表裏一体だったことの現れでもあった。終戦の年の二〇年一一月六日、GHQ（連合国総司令部）は、米国務省と陸軍省の手でCMPE（セントラル・モーション・ピクチャー・エクスチェンジ）が設立され、アメリカ映画の一元的輸入を行うことを発表。翌二一年二月には、戦後初の輸入作品となる「キューリー夫人」と「春の序曲」の二作が封切られた。

しかし、当時CMPEに在籍していた淀川長治氏は、その内実をこう語る。

「たとえば『我が道を往く』『キューリー夫人』『人間エジソン』など、CMPEを通じてアメリカの素晴らしい映画がたくさん入ってきたのは事実です。ただ、CMPEの総支配人は映画をまったく知らず愛情もない人だった。『怒りの葡萄』、『タバコ・ロード』など、アメリカ南部の貧農や労働者の生活を描いた作品を、アメリカの貧乏な部分は見せられないと、本国へ送り返していたんです」

と、今も憤りを隠さない。

当初、他国の映画の輸入を認めなかったGHQも、二一年一二月には、国・社の外国法人に限り輸入を認める。しかし厳しい検閲が行われ、「鉄路の闘い」（仏）などが輸入禁止となり、「戦火のかなた」（伊）も大幅にカットされた。「反ナチ・レジスタンス映画は、占領軍への反抗を教唆するというのがその理由でした」と、映画評論家の山田和夫氏は語る。

昭和二五年にはGHQが各国の年間輸入割り当て本数（クォータ）を決め、日本法人も映画の輸入に参加できるようになった。しかし本数は、アメリカ二七〇本、フランス二四本、イギリス一四本、ソ連七本、イタリア五本、そのほかは一本とされていた。再開された東和の配給業務も、こうした厳しい条件下で行われたのである。二六年には映画の輸入行政が大蔵省に移管されCMPEも解散したが、クォータ制度は昭和三九年に映画の輸入が自由化されるまで続いたのだった。

▶日活名画座のデュヴィヴィエ作品上映で、観客から寄せられた署名帖を監督に手渡す川喜多長政。

川喜多記念映画財団提供

外から見たNIPPON

ようやく公刊された東京裁判「パル"無罪"判決書」の真意

——佐伯　修

昭和二一年五月三日に開始された「東京裁判」（極東国際軍事裁判）は、東条英機元首相以下二五人の被告全員に「主要戦争犯罪人」（A級戦犯）として有罪（七名には死刑）の判決を宣告し、二三年一一月一二日に終了した。

この判決は、米、英、ソなど、旧連合国の判事を中心とする、多数派判決を採用したものだったが、インドのラダビノッド・パル判事（一八八六～一九六七）は、それとは真向から異なる独自の判決を提出した。

この「判決書」（以下東京裁判研究会『共同研究　パル判決書』より引用）の中で、パルは、たとえば、アメリカ合衆国大統領みずからが命令を下し、連合国が正当化しようとする広島・長崎への原爆投下を、次のように、はっきりと批難する。

「第一次世界大戦中、戦争遂行に当たってみずから指令した残忍な方法を正当化するために、ドイツ皇帝が述べたといわれる言葉と、第二次大戦後これらの非人道的な爆撃を正当化するために、現在唱えられている言葉との間には、さしたる差異があるとは本官は考えられないのである」

また、日本に対し、国際条約に反して武力行使を行ったゆえに「平和にたいする罪」を問おうとする連合国側の論理に対し、パルは、まだ一年間有効期限のあった「日ソ中立条約」を破って日本を攻撃したソ連や、それをそそのかした米英も同罪であるとした。そして、彼は、裁判そのものを、勝者による敗者に対する一方的な復讐と断じ、全被告の「起訴状中の各起訴事実全部につき無罪」を「勧告」する。

ほぼ一三〇〇ページにおよぶパルの「判決書」は、法廷で朗読もされず、公刊も禁じられた。そして、やっとこの年、昭和二七年に、部分的な日本語訳が公刊されたが、それは「日本無罪論」として紹介されたため、戦前戦中の日本の政策に対する弁護であるかのように誤解された。

だが、パルは、日本の行いを容認などしていない。彼は、日本の政策や行動を「正当化できるものではなかった」と言い切っており、張作霖暗殺を「無謀でまた卑怯」と言い、「南京大虐殺」について「これら鬼畜行為の多くのものは実際に行われたのであることは否定できない」としている。

"道義の人"パルは、その点で日本を許さない。と同時に、連合国がみずからの罪を棚上げして日本を裁くのを許せなかったのだ。そこには、大英帝国による苛酷な植民地支配を知るものの義憤が感じられる。

▶古代インド法の研究者としても知られる。

朝日新聞社

▲11月18日　ポール・エリュアール(56)
仏の詩人。1917年『義務と不安』刊。第1次大戦後はダダ運動に参加、後にシュールレアリスムの代表的詩人に。

▲8月29日　大河内正敏(73)
元東大教授。大正10年から25年間、理化学研究所所長をつとめ、国際的な研究機関に育成。昭和13年に貴族院議員。

▲5月21日　田中館愛橘(95)
物理学者、元東大教授。明治期、日本各地の重力を測定。後、地震・航空の研究に尽力。昭和19年文化勲章受章。

▼3月1日　久米正雄(60)
小説家。大正3年「牛乳屋の兄弟」発表。戦後は鎌倉文庫社長をつとめ、雑誌「人間」創刊。『破船』など。写真左端。

▲11月26日　スヴェン・ヘディン(87)
スウェーデンの地理学者。中央アジアの探検・調査を行い、トランス・ヒマラヤ山系、楼蘭の遺跡などを発見。

▲10月17日　岡田啓介(84)
軍人、政治家。海相などを経て、昭和9年7月首相に就任。11年の2・26事件では難を逃れたが、3月辞任。

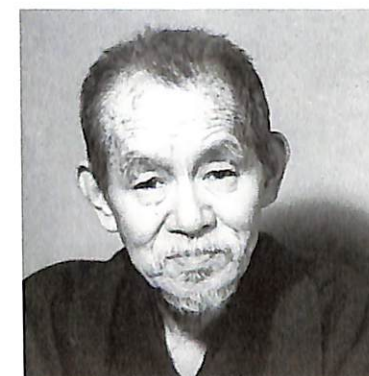
▲10月19日　土井晩翠(80)
詩人。明治32年に処女詩集『天地有情』刊。「荒城の月」も彼の作詞。昭和25年文化勲章受章。ほかに『暁鐘』など。

◀12月30日　中山晋平(65)
作曲家。大正初期「カチューシャの唄」が大ヒット。以後「船頭小唄」「東京行進曲」など2000余曲を作曲した。

▲6月1日　ジョン・デューイ(92)
米の哲学者。プラグマティズムを大成したほか、教育改革者として大きな功績を残した。著書『哲学の再構成』ほか。

共同通信社

▲3月27日　豊田喜一郎(57)
豊田佐吉の長男で、昭和16年トヨタ自動車工業社長に就任。生産技術、部品の自給体制を整え、社の基盤を作った。

▲8月22日　平沼騏一郎(84)
政治家。東大卒業後司法省に入り、検事総長、法相を歴任。昭和14年首相に就任。戦後、A級戦犯で終身禁固刑に。

▲5月14日　三田村鳶魚(82)
随筆家で、江戸文化の研究家。昭和13年雑誌「江戸読本」創刊。著書に『江戸の珍物』『大衆文芸評判記』など。

ミニ事典

1952年のキーワード

黄変米

カビによって黄色に変質した米。ペニシリウム・イスランジクムなどのカビは、毒性が強く肝臓障害や腎臓障害を起こす。一月一三日、農林省は神戸港で陸揚げしたビルマ米の三分の一が黄変米であることを発見、配給を停止。以後、何回か発見された。この頃は米の多くを「外米」にたよっていたため、昭和三一年に解決するまで外米配給の是非にまで問題がおよび、大きな騒ぎになった。

李承晩ライン

韓国大統領・李承晩が一月一八日、「海洋主権宣言」とともに発表した公海上の水域境界線。朝鮮半島周辺を好漁場とする、西日本の漁民が受けた打撃は大きく、日本政府は公海の自由の原則を盾に反対したが、韓国側の主張はくつがえらなかった。かえってこの年一〇月には捕獲審判令を公布、李ラインを侵したとみなされる漁船を次々に拿捕した。昭和三九年に解決するが、それまでに日本漁船三二六隻が拿捕され、乗組員三九〇四人が抑留された。

時事通信社

▲拿捕された日本漁船は係留され、乗組員の多くは船内に抑留された。

マーケット・バスケット方式

生活に必要な最低限の全消費物資の品目と数量に、それらの購入価格を掛けて最低生活費を算出する方法。イギリス労働党が、一九二三年に創案。「全物量方式」とも言う。二月二二日、総評はこの方式による賃金綱領草案を発表。賃上げ要求の際の根拠とするようになった。

日米行政協定

日米安全保障条約に基づき、駐留米軍の配備の条件を具体的に定めた法律。二月二八日調印。米軍は必要に応じて日本のどこにでも基地を設けられる、日本は米軍人・軍属、その家族に刑事裁判権を持たないなどを内容としたため、反対運動も起きたが、政府はこれを拒否。以後、石川県の内灘・東京の砂川など各地に基地問題を引き起こすことになった。

ストレプトマイシン

抗生物質のひとつ。"亡国病"とまで言われた結核を撲滅した「驚異の新薬」として知られる。一九四四年にアメリカの微生物学者ワクスマンが発見。日本では昭和一八年、結核の死亡率が人口一〇万人に対し二三五人にも達したが、二五年にこの新薬が量産されるようになり、第二、第三の新薬パス、ヒドラジッドなども登場、この年五月二八日には、東京・日比谷公会堂で結核死亡半減記念式典が開かれるまでになった。

中央教育審議会

文部大臣の教育政策決定のための諮問機関。略称・中教審。六月六日、文部省設置法の改正で設置された。建議された答申案は法制化または文部行政の基準となる。構成員は学識経験者など二〇人の委員らからなり、初代会長には東大教授の亀山直人が就任、翌年一月六日に発足した。以降、教員の政治的中立、教科書制度、教員養成制度などが答申された。

破壊活動防止法

「暴力主義的破壊活動」を行った団体の活動制限・解散指定や、教唆を含む個人の破壊行為の取締りを規定した法律。七月二一日に公布された。GHQ（連合国総司令部）による占領終結後の治安対策を万全にすることが目的だったが、基本的人権の侵害をもたらすなどとして、激しい反対運動が起きた。それが後、この法律の乱用に歯止めをかける大きな力となり、一度も適用されていない。

地婦連

地域婦人団体連絡協議会の略。婦人の地位向上、生活刷新などを目的に七月九日に結成された地域婦人会の連合組織。理事長・山高しげり。会員六百二十万余人。昭和四五年のカラーテレビ二重価格問題以降、消費者問題に積極的に取り組み、四六年には安価で安全な化粧品をめざし「ちふれ化粧品」の販売を行った。

電源開発株式会社

開発困難な地点の大規模電源開発を行うため、九月一六日、政府が五〇パーセント出資して設立した特殊法人。多額の外国・政府資金を投入し、天竜川流域の佐久間発電所建設、只見川水系の開発などを行い、日本の経済自立達成、後の高度成長の礎として重要な役割を担った。

毎日新聞社

▲只見川に建設中の柳津発電所ダム。後に奥只見・田子倉ダムの建設が始まる。

騒音防止デー

九月二六日に東京の市政会館で開かれた「都市騒音防止に関する協議会」答申に基づき、東京都が一〇月一五日から三日間行った騒音防止キャンペーン。この頃、都民室公聴部には騒音苦情が絶えず、宣伝放送、パチンコ、町工場、都電、ラジオなどから発する音が、騒音として槍玉にあげられていた。

ココム

COCOM＝対共産圏輸出統制委員会の略。一九四九年に設立された戦略物資・技術の対共産圏輸出規制を協議・統制する機関。米・英・仏・伊などが参加、日本はこの年一一月一四日に加盟。一九八九年以降のソ連邦崩壊、東欧変革で加盟国・規制対象国・対象品目は様変わりした。

キャノン機関

GHQ・G2（諜報）のウィロビー局長直属の秘密諜報機関。昭和二二年に創立、ジャック・キャノン中佐を長とするためこの名がある。朝鮮戦争下、スパイ密輸船の手配、二重スパイ作りなどを計画、多数の日本人機関員が暗躍した。一二月七日、前年来、この機関に拉致されていたという、作家で元共産党員の鹿地亘が突然帰宅、その証言から初めてこの機関の存在が明らかになった。

▶鹿地亘事件に関連して自首した三橋正雄は、米ソ二重スパイ。写真は彼の自宅土蔵で発見された通信機材。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1952

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス ㈱カマル社 ㈱コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ 飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘 結城順 吉田忠正

●写真協力
上田三郎 上田良一 奥村健太郎 乙咩雅 川島浩 野沢正 福井英一 前沢健哉
アース出版局 朝日新聞社 アフロ・フォト NHK 沖縄タイムス ALLSPORT 共同通信社 CORBIS・BETTMANN 光文社 時事通信社 G・I・P・Tokyo 中国新聞社 中日新聞社 PPS Popperfoto 毎日新聞社 ユニフォト・プレス 読売新聞社 WWP 松竹 手塚プロダクション 東宝 マルベル堂 三菱地所 ワコール 石橋財団ブリヂストン美術館 大宅壮一文庫 川喜多記念映画財団 日本玩具資料館 日本近代文学館 日本PTA全国協議会

本誌収録写真につき、所在不詳などのため事前連絡ができないものがありました。お心当たりの方は、編集部までご一報ください。

PILOT

おてもと

145品、書けました。

世界初、激細で蛍光カラー

●新開発バイオポリマーインキでにじまずクリアーな発色。●3点支持方式で、極小超硬ボールを装着。

■ハイテックC LH-20C3(0.3ミリボール／筆跡幅0.15mm)
■ハイテックC LH-20C4(0.4ミリボール／筆跡幅0.2mm)
インキ色:黒・赤・青・グリーン・ブラウン・ライトブルー・オレンジ・ピンク・バイオレット・イエロー・ブルーブラック・蛍光グリーン・蛍光ブラウン・蛍光ブルー・蛍光オレンジ・蛍光ピンク・蛍光レッド・蛍光バイオレット・蛍光イエロー
■ハイテック05 LH-20C5(0.5ミリボール／筆跡幅0.25mm)
インキ色:黒・赤・青・グリーン・ブルーブラック ■各1本200円〈税抜〉

ビッシリ書ける、ハッキリ読める。ハイテックC

製造元:パイロットインキ㈱

定価500円

雑誌 23703-11/18 T1123703110568
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社